

**北薩・伊佐地区埋蔵文化財
分布調査報告書 (Ⅶ)**

平成9年度

出水市・大口市(一部)

1998年3月

鹿児島県教育委員会



出水市莊上田淵（貝塚）



出水市莊上田淵（塚）

序 文

今日、経済活動の進展に伴う、埋蔵文化財発掘調査件数は、増加の一途をたどり、さらに大型化する傾向にあります。このようななかで「上野原遺跡」をはじめ中種子町「立切遺跡」、垂水市「柘原貝塚」など、調査結果は全国的にも学術的に高い評価を得るとともに広く県民に話題を提供することにより共感を頂き、文化財に対する関心・理解も高まってきております。

県教育委員会では、北薩・伊佐地区（一部日置地区）の2市12町4村における埋蔵文化財分布調査を、平成3年度から8か年計画（当初9か年を8か年に変更）で実施し、395か所の遺跡が確認できました。

この地区では、すでに西回り自動車道の建設が具体化し、これまでの分布調査をもとに、発掘調査も実施しております。また、それに伴う周辺地域の開発や九州新幹線鹿児島ルートへの建設や農業基盤整備事業等の推進に、これまでの調査結果が大いに活用されています。さらに、周辺の市町村においても、資料の整備が急がれておりこの事業の重要性が高まっています。

本報告書は、平成9年度に実施した出水市及び大口市（一部）における埋蔵文化財分布調査結果で、新たに発見された53遺跡についてまとめたものです

今後とも、市町村教育委員会におかれましては、埋蔵文化財の一層の保存・活用が図られるよう遺跡の周知等について、本報告書を積極的に活用されるようお願いいたします。

終わりに、調査に協力していただいた関係市教育委員会並びに関係者に心から感謝の意を表します。

平成10年3月

鹿児島県教育委員会
教育長 徳 田 穰

報告書抄録

ふりがな	ほくさつ いさちくまいぞうぶんかざいぶんぶちょうさほうこくしょ							
書名	北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（Ⅶ）							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鹿児島県埋蔵文化財報告書							
シリーズ番	73							
編著者名	青崎 和憲							
編集機関	鹿児島県教育委員会							
所在地	〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1							
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (対象)	調査原因
	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
いずみ 出水	いずみし 出水市 こめのつ 米ノ津 ひらまつほか 平松他	46208	120	32°01'	130°15'	1998年 1月6日 ～23日		北薩・伊 佐地区埋 蔵文化財 分布調査
			}	}	}			
			157	32°09'	130°31'			
おお 大口	おおくちし 大口市 やまの 山野 さとほたほか 里畑他	46209	123	32°00'	130°31'	1998年 1月26日 ～30日		"
			}	}	}			
			137	32°10'	130°44'			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
たぶち 田淵遺跡	貝塚	縄文時代		貝塚		縄文後期		隣接して「塚」 有り
さと 里畑遺跡	散布地	縄文時代		——		縄文晩期他		

例 言

1. 本書は、平成8年度に実施した北薩・伊佐地区埋蔵文化財調査における「北薩・伊佐地区埋蔵文化財調査報告書（Ⅶ）」である。
2. 本年度は、出水市・大口市（一部）の2市を対象とした田畑等の一筆毎の悉皆調査を基本として、必要に応じて聞き取り調査を実施した。
3. 調査に当たっては、各市町作成の1万分の1、2万5千分の1の地形図を利用した。
4. 地図中の遺跡地図は、黒刷りが周知の遺跡を、赤刷りが新発見の遺跡のものである。
5. 新発見の遺跡については、その遺跡範囲のみを記入した挿図を掲載し、そのほかの周知の遺跡等は記入していない。
6. 本書の執筆・編集は青崎が行った。

目 次

序 文	2
報告書抄録	3
例 言	4
目 次	5
第1章 調査の経過	7
第1節 調査に至るまでの経過	7
第2節 調査の組織	7
第3節 調査の経過	8
第2章 調査報告	11
第1節 出水市の調査	11
第2節 大口市の調査	48

表 目 次

第1表 過去の分布調査の結果	7
第2表 出水市新発見の遺跡地名表	9
第3表 大口市（一部）新発見の遺跡地名表	10

挿 図 目 次

口 絵 出水市 田淵遺跡（上段一田淵貝塚，下段一田淵の塚）	1
第1図 平松遺跡の位置図	17
第2図 鑑遺跡，諏訪後遺跡の位置図	18
第3図 井出ノ原遺跡，御所園原遺跡，鯖淵遺跡，水天上遺跡の位置図	19
第4図 長松寺遺跡，西宮ノ脇遺跡の位置図	20
第5図 新蔵遺跡の位置図	21
第6図 御堂遺跡，庵木園遺跡，上松遺跡，下郡山遺跡の位置図	22
第7図 丸岡遺跡，西牟田遺跡，並木下遺跡，太鼓橋遺跡，政所遺跡の位置図	23
第8図 須山遺跡の位置図	24
第9図 大坪遺跡の位置図	25
第10図 八幡遺跡，一町樋遺跡，成願寺遺跡，天神原遺跡， 並松遺跡，塚込遺跡，山王西遺跡の位置図	26
第11図 上桜ノ西遺跡，砂取遺跡，出水ヶ池遺跡，池ノ尾遺跡， 江川野口遺跡，小野口遺跡の位置図	27

第12図	江川野口遺跡，小野口遺跡の位置図	28
第13図	金松遺跡の位置図	29
第14図	田淵遺跡の位置図	30
第15図	出水市表採遺物（1）	41
第16図	出水市表採遺物（2）	42
第17図	上齊遺跡，里畑遺跡，千里原遺跡の位置図	49
第18図	殿後遺跡，萩谷遺跡，湯ノ谷遺跡，池ノ山遺跡の位置図	50
第19図	上尾下シ遺跡，下尾下シ遺跡の位置図	51
第20図	木崎原遺跡，大儀司遺跡，軍神ノ上遺跡の位置図	53
第21図	永山遺跡，小城遺跡の位置図	54
第22図	スワノ前遺跡の位置図	55
第23図	大口市表採集遺物	56

図 版 目 次

図版 1	平松遺跡，諏訪後遺跡，井手ノ原遺跡	31
図版 2	御所園原遺跡，鯖淵遺跡，水天上遺跡，長松寺遺跡	32
図版 3	西宮ノ脇遺跡，新蔵遺跡，御堂遺跡，庵木園遺跡	33
図版 4	上松遺跡，下郡山遺跡，丸岡遺跡，西牟田遺跡	34
図版 5	並木下遺跡，太鼓橋遺跡，政所遺跡，須山遺跡	35
図版 6	大坪遺跡，八幡遺跡，一町樋遺跡，成願寺遺跡	36
図版 7	天神原遺跡，並松遺跡，塚込遺跡，山王西遺跡	37
図版 8	上桜ノ西遺跡，砂取遺跡，出水ケ池遺跡，池ノ尾下遺跡	38
図版 9	江川野口遺跡，小野口遺跡，片原遺跡，平瀬遺跡	39
図版10	平瀬遺跡，金松遺跡，田淵遺跡	40
図版11	出水市採集遺物（1）	43
図版12	出水市採集遺物（2）	44
図版13	出水市採集遺物（3）	45
図版14	出水市採集遺物（4）	46
図版15	出水市採集遺物（5）	47
図版16	上齊遺跡，里畑遺跡，千里原遺跡，殿後遺跡	57
図版17	萩谷遺跡，湯ノ谷遺跡，池ノ山遺跡，上尾下シ遺跡	58
図版18	下尾下シ遺跡，木崎原遺跡，大儀遺跡，軍神ノ上遺跡	59
図版19	永山遺跡，小城遺跡，スワノ前遺跡	60
図版20	大口市採集遺物（1）	61
図版21	大口市採集遺物（2）	62

第 1 章 調査の経過

第 1 節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、北薩・伊佐地区の諸開発事業の施行に際して埋蔵文化財保護行政と開発事業との調整に資することを目的に、北薩・伊佐地区の4市13町4村（串木野市・阿久根市・出水市・大口市・東市来町・市来町・樋脇町・東郷町・鶴田町・宮之城町・薩摩町・祁答院町・里村・上甌村・鹿島村・下甌村・高尾野町・長島町・東町・野田町・菱刈町）を対象にした埋蔵文化財分布調査を平成3年度から平成11年度にかけて計画した。

昨年度までの過去6か年における2市12町4村での分布調査の成果は、総計395遺跡であった（第1表）。これらについては、早速、九州西回り自動車道関連事業や諸開発事業、農村基盤整備事業の協議・調整の資料として活用されている。

北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査は平成11年度を目処に計画したが、事業の見直しを図り平成10年度をもって終息することとなり、従って平成9年度は出水市と平成10年度調査計画の大口市の一部を調査対象に取り込んで実施することとなった。

第 1 表 過去の分布調査の成果

年 度	対 象 市 町 村	遺 跡 数	実 施 期 間
平成3年度	串木野市・東市来町・市来町	116遺跡	5月7日～6月13日
平成4年度	樋脇町・東郷町・鶴田町	104遺跡	8月3日～9月10日
平成5年度	宮之城町・薩摩町	104遺跡	7月5日～8月12日
平成6年度	甌島（里村・上甌・鹿島村・下甌村）・ 長島町・祁答院町	37遺跡	7月5日～8月12日
平成7年度	東町・高尾野町	19遺跡	11月28日～12月22日
平成8年度	阿久根市・野田町	15遺跡	11月12日～11月27日

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項（昭和46年4月）に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆毎の悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施するものである。また、調査結果については遺跡分布図・報告書を作成し関係機関に配布する。

平成9年度は、出水市と大口市（一部）の2市を対象に、平成10年1月6日（火）～1月30日（金）にかけて分布調査を実施した。

第 2 節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教 育 長	徳 田 穰
調査責任者	鹿児島県教育庁文化財課	課 長	内 村 正 弘
	”	課 長 補 佐	山 田 孝 志
調査企画担当者	”	主任文化財主事 （兼埋蔵文化財係長）	戸 崎 勝 洋

調査担当者	鹿児島県教育庁文化財課	文化財主事	青崎和憲
	〃	〃	堂込秀人
調査事務担当者	〃	主査	斉藤守重

なお、調査にあたっては出水市教育事務所、伊佐教育事務所をはじめ、出水市教育委員会、大口市教育委員会の協力を得た。また、吉留秀敏（福岡市立埋蔵文化財センター）氏には、出水市内における遺物採集地のデータ及び資料の提供等、ご支援を頂いた。

第3節 調査経過

調査は、出水市を3週間、大口市を1週間の予定で、出水市から調査を実施した。なお、出水市社会教育課岩崎新輔、大口市社会教育課森田誠・中村守男の各氏が調査に同行し協力を得た。

整理及び報告書作成作業は、県立埋蔵文化財センターで行なった。

第4節 調査日程と調査地区

(1) 出水市分布調査

- 1／6 切通、櫓木、境町、前田、針原、中塩屋、平松東地区
- 1／7 平松西、上ノ原、朝隈、安原、沖田、愛宕下、太田、井上、山崎、上鯖淵地区
- 1／8 上松、上村東、上村西、福江、新城、上知識、鹿島、八幡、西出水地区
- 1／12 栗毛野、江川野、清水、花立西、上大原野、西出水町地区
- 1／13 下大原野、東大原野、西大原野、平和町、六月田下、明神町、今釜町、住吉町地区
- 1／14 上中、下中、上屋、武本、小原上地区
- 1／19 表郷東、表郷西、八坊、中央町、田之頭、日当、日添、芭蕉、高川、高牟礼、射場元、田原地区
- 1／20 上場、炭頭、青椎、折尾野、白木川内地区
- 1／21 荘、荘下、小原上、宇都野、今木場地区
- 1／23 荘地区。出水市においては、38遺跡を発見した。遺跡地の写真撮影。

第2表 出水市新発見の遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	遺跡番号
1	平松	出水市米ノ津平松他	丘陵	縄文・古墳・平安	土器・青磁・染付・黒曜石	8-120
2	鐙	美原町鐙他	段丘先端部	縄文	土器・黒曜石・染付	8-121
3	諏訪後	朝熊他	台地先端部	縄文・奈良~平安	土器・土師器・須恵器・青磁	8-122
4	井出ノ原	上鯖淵井出ノ原他	段丘先端部	縄文・古墳	土器	8-123
5	御所園原	御所園原他	台地	縄文	土器・黒曜石	8-124
6	鯖淵	上鯖淵鯖淵他	段丘	縄文・中世	押型文土器・黒曜石・青磁	8-125
7	水天上	麓町山崎他	台北先端部	縄文・奈良~平安	土器・土師器・黒曜石	8-126
8	長松寺	福江町長松寺他	台地先端部	縄文	土器	8-127
9	西宮ノ脇	下知識町西宮ノ脇	段丘	古墳	土器	8-128
10	新蔵	福江町新蔵他	丘陵	縄文	土器・黒曜石	8-129
11	御堂	下知識町御堂他	台地先端部	古墳・中世	土器・青磁	8-130
12	庵木園	知識町庵木園他	台地先端部	縄文・古墳	土器	8-131
13	上松	上松他	台地先端部	縄文	土器	8-132
14	下郡山	下郡山他	丘陵先端部	縄文・古墳	土器	8-133
15	丸岡	大野原町丸岡他	台地	古墳・奈良~平安	土器・土師器	8-134
16	西牟田	西出水西牟田他	台地	縄文	土器・黒曜石	8-135
17	並木下	並木下他	台地	古墳・中世	土器・青磁	8-136
18	太鼓橋	太鼓橋他	台地	縄文	土器	8-137
19	政所	政所	台地	古墳	土器	8-138
20	須山	上大川内須山	山腹	旧石器	黒曜石	8-139
21	大坪	武本大坪他	台地(水田)	古墳	土器	8-140
22	八幡	武本池ノ下他	台地	古墳・中世	土器	8-141
23	一町樋	中央町一町樋他	台地先端部	古墳	土器	8-142
24	成願寺	成願寺他	台地先端部	縄文・古墳	土器	8-143
25	天神原	天神原	台地	古墳	土器	8-144
26	並松	並松他	段丘先端部	古墳・奈良~平安	土器	8-145
27	塚込	塚込他	台地(水田)	古墳	土器	8-146
28	山王西	西出水山王西他	台地先端部	古墳	土器	8-147
29	上桜ノ西	武本上桜西他	台地	縄文・古墳	土器	8-148
30	砂取	砂取他	台地	縄文	土器・黒曜石	8-149
31	出水ヶ池	出水ヶ池他	台地	縄文	土器・黒曜石	8-150

32	池ノ尾下	〃 〃 池ノ尾下他	台 地	縄 文	土器・黒曜石	8-151
33	江川野口	〃 〃 江川野口他	台 地	縄 文	土器・黒曜石	8-152
34	小野口	〃 〃 小野口他	台 地	縄 文	土器	8-153
35	片 原	〃 〃 下大川内片原	段 丘	縄 文	土器・黒曜石	8-154
36	平 渡	〃 〃 下大川内平渡	段 丘	縄 文	黒曜石	8-155
37	金 松	〃 〃 平和町金松	台 地	古 墳	土器	8-156
38	田 淵	〃 〃 莊上田淵	台地先端部	縄文・古墳	土器・貝殻・須恵器	8-157

(2) 大口市 (一部) 分布調査

1/26 平出水, 向井野, 白木, 萩谷, 塚ノ谷, 下殿, 大住, 宮人

1/27 尾ノ上, 山野, 麓, 小木原, 十曾, 五女木, 立屋敷, 小川内

1/28 十曾, 井立田, 山野, 日東, 狸々

1/29 木ノ氏, 神池, 松ノ口, 松尾山, 新青木, 上青木

1/30 大口市においては15遺跡を発見した。遺跡地の写真撮影。

なお, 大口市における残りの地区の調査については, 平成10年度に実施予定である。

第3表 大口市 (一部) 新発見の遺跡地名表

番号	遺跡名	所 在 地	地 形	時 代	遺 物 等	遺跡番号
1	上 齊	大口市山野上齊	台 地	縄文・古墳	土器・黒曜石	9-123
2	里 畑	〃 〃 里畑	舌状台地	縄文・中世	土器・黒曜石・青磁・白磁	9-124
3	千里原	〃 平出水千里原	台 地	縄文・古墳・中世	土器・土師器・青磁・黒曜石	9-125
4	殿 後	〃 白木殿後	微 高 地	縄文・中世	土器・黒曜石・青磁・染付	9-126
5	萩 谷	〃 羽月萩谷	舌状台地	縄文・古墳	土器・黒曜石	9-127
6	湯ノ谷	〃 〃 湯ノ谷	台地縁辺部	縄文・奈良~平安	土器・須恵器	9-128
7	池ノ山	〃 〃 池ノ谷	台 地	縄 文	土器・黒曜石	9-129
8	上尾下シ	〃 宮人上尾下シ	台 地	縄 文	土器・黒曜石	9-130
9	下尾下シ	〃 〃 下尾下シ	台 地	縄 文	土器・黒曜石	9-131
10	木崎原	〃 牛尾木崎原	台 地	縄 文	土器・黒曜石	9-132
11	大儀司	〃 大田大儀司	舌状台地	縄 文	土器・黒曜石	9-133
12	軍神ノ上	〃 〃 軍神ノ上	台 地	縄 文	土器・黒曜石	9-134
13	永 山	〃 小木原永山	台 地	縄 文	土器・黒曜石	9-135
14	小 城	〃 牛尾小城	台 地	縄文・古墳	土器・黒曜石	9-136
15	スワノ前	〃 青木スワノ前	舌状台地	縄 文	土器・黒曜石	9-137

第 2 章 調 査 報 告

第 1 節 出水市の調査

出水市は県の北部に位置し、熊本県水俣市と接する県境の町である。東からは標高678mの矢筈岳を主峰とする肥後山系、南東からは標高1,067mの紫尾山塊の幾重にも延びた丘陵が迫り、西側は広大で肥沃な出水沖積平野が八代海に開口する。出水平野はこれら山塊を源にした広瀬川や平良川、中流域で合流し米ノ津川となる河川によって形成された丘陵台地や扇状地、河岸段丘、三角州等を合わせもって成立する。なお、海岸部は江戸時代以降干拓が行なわれ現在の地形を呈する。

出水地方は考古学・古代学・歴史学研究のフィールドとして学術上貴重な地として早くから注目されてきた。

出水市の東部、大口市・水俣市と接する上場高原一帯は旧石器時代の遺跡が点在し、特に旧石器時代の代表的な遺跡として知られている上場遺跡は、始良テフラ（約2.2万年前）を境に爪形文土器と細石器の共伴、ナイフ形石器、台形石器等を包含する7時期の文化層の存在が明らかとなり、また旧石器時代の竪穴式住居跡も発見された。さらに、隣接する大口市日東には黒曜石原産地も所在している。出水平野での遺跡の立地としては主に、扇頂部や扇端部の河岸段丘、山麓縁辺、裾部に集中し、縄文早期・前期・後期の牟田尻遺跡やカラン迫遺跡、前期の荘貝塚、中期の柿内遺跡や江内貝塚等が知られ、特に出水貝塚は大正9年、京都大学によって本県初の貝塚遺跡調査で、戦後の調査によって縄文早期押型文～中・後期の貝塚として著名である。晩期の遺跡としては沖田岩戸遺跡、中里遺跡が所在する。弥生時代遺跡としては、中期の覆石墓から後期の葺石土壙墓、古墳時代の地下式板石積石室へと移行する埋葬形態の変遷を知る堂前遺跡や下高尾野遺跡等がある。古墳時代になると洪積台地縁辺に立地する短甲が出土した溝下古墳、海岸沿いに位置する箱式石棺墓の切通古墳や黒ノ瀬戸海峡によって隔てられた長島には5世紀～7世紀にかけての高塚古墳が出現する。出水の地名は、続日本記や和名抄、津久岡田帳に「伊豆美」や「和泉郡」として登場し、平安時代には「院」が成立し、鎌倉時代には島津忠久が島津荘下司職となり5代貞久まで、薩摩国守護所として木牟礼城は守護勢力の拠点、市来・老神遺跡の古代駅に関する遺跡等、古代から南北朝・鎌倉・中世にかけて重要な地であった。

現在の状況は、山地帯や山麓は果樹園地帯、沖積地は水田地帯、丘陵部は住宅地、樹木造園地・樹園地が大半を占めるが、特に山地帯や山麓部の果樹園地帯についての調査は困難であった。今後ともますます市街地においては宅地化や諸整備事業が進み、新幹線や西回り自動車道建設事業等、諸開発事業との調整について注意を要する地区であろう。

1. 平松遺跡（第1・15図，図版1・11）

出水市北部、矢筈岳から西に延びた緩やかな台地で八代海を一望する。高柳川の支流で西流する江良川の北側、屋筈岳から延びた標高約16mの台地に位置する。台地は、西側に緩やかに傾斜した舌状を呈し、北側で狭い低湿地の小水田となる。遺跡は米ノ津運動公園を東端として広範囲に広がる。

遺物には、縄文土器、成川式土器、青磁、染付、黒曜石等、多数散布している。縄文時代と古墳時代、奈良～平安時代の遺跡である。

周辺は宅地開発が進行しつつあり、今後、埋蔵文化財の取り扱いについて留意する必要がある。

2. 鐙遺跡（第2図，図版11）

当遺跡は、鹿児島本線沿い、高柳川の右岸、矢筈岳から延びた出水平野と接する台地縁辺部の微高地に位置する。森神社を中心とする集落の屋敷畑が遺跡となる。

遺物には、縄文土器と思われる破片と黒曜石の破片を採集した。縄文時代の遺跡である。

3. 諏訪後遺跡（第2・15図，図版1・11）

当遺跡は、鐙遺跡の南方、諏訪大明神公園を中心とする標高約30mの南に傾斜した比較的開けた台地先端部に位置する。遺跡周辺は宅地化が進んでいる。

縄文土器、土師器、須恵器、青磁等を採集した。縄文時代と奈良～平安の遺跡である。

4. 井出ノ原遺跡（第3図，図版1・11）

出水市中心街を望む標高約37mの段丘先端部に位置し、台地西側端は急斜の断崖絶壁となって高柳川へいたる。遺跡周辺は宅地化が進み注意を要する。

遺物は屋敷畑から採集され、縄文土器、成川式土器、黒曜石片多数を採集し、縄文時代、古墳時代の遺跡である。

5. 御所園原遺跡（第3図，図版2）

一本松大橋から愛宕神社の愛宕橋にいたる標高約50mの丘陵山腹、道路西側畑地に位置する。

遺物には縄文土器片、黒曜石があり縄文時代の遺跡である。

6. 鯖淵遺跡（第3図，図版2・11）

遺跡は、市街地南西部にあたる、米ノ津川が大きく蛇行した右岸の水田とは一段高い、標高約26mの河岸段丘に位置する。なお、台地は一本松大橋と築瀬橋に挟まれ、西側に面したほぼ南北に細長い形状の台地である。

遺物は押型文、青磁、黒曜石が多数採集され、縄文時代早期、中世の遺跡である。

7. 水天上遺跡（第3図，図版2・11）

遺跡は、中～近世の中心地であった武家屋敷・出水麓集落の東側縁辺部に位置する。東側は段を有して低地の水田となって米ノ津川が北流する。遺跡一帯は住宅が密集していることから屋敷畑を対象とした悉皆調査となり困難をきたした。

縄文土器、土師器、黒曜石が採集され、縄文時代、奈良～平安時代、江戸時代の遺跡である。

8. 長松寺遺跡（第4図，図版2・11）

米ノ津川によって形成された三角州の裾部、穀倉地帯である出水沖積平野の微高地の畑地及び果樹園に位置する。高雷龍神社の南側にあたる。

縄文土器片が採集され、縄文時代の遺跡である。

9. 西宮ノ脇遺跡（第4図，図版3・12）

永松寺遺跡の南西部、諏訪神社から北に舌状に延びた小規模の微高地に位置する。台地の幅は10m弱で3方を水田に囲まれ、水田との比高約2mである。

成川式土器片を採集し、古墳時代の遺跡である。

10. 新蔵遺跡（第5図，図版3・12）

遺跡は、出水沖積平野の北端部にあたる、八代海の海岸線に近い国道3号線沿いの福ノ江集落に位置し、東、西側を水田に挟まれた標高約6mの微高地に位置する。

縄文土器片や黒曜石片を多数採集し、縄文時代の遺跡である。

11. 御堂遺跡（第6・15図，図版3・12）

遺跡は六月田橋の西側、米ノ津川左岸の標高約12mの河岸段丘縁辺部にあたり、上村西集落の広範囲にかけて遺物が散布する。

主に成川式土器片や土師器片、青磁片を採集し、古墳時代及び中世の遺跡である。

12. 庵木園遺跡（第6・16図，図版3・12）

遺跡は、御堂遺跡の南側にあたり八坂神社の北側に位置する。河岸段丘縁辺よりわずかに内側の上村東集落を中心に遺跡が広がるものと思われる。

採集遺物には、縄文土器片や成川式土器片があり、縄文時代、古墳時代の遺跡である。

13. 上松遺跡（第6・15図，図版4・12）

遺跡は、庵木園遺跡の南側、南北に細長い上松集落内に位置する。東側の下郡山遺跡とは河岸段丘に入り込んだ狭い水田を挟んで対峙する位置にある。

縄文土器片や黒曜石片が採集され、縄文時代の遺跡である。

14. 下郡山遺跡（第6図，図版4・12）

遺跡は、国道328号バイパスに接する溝下・山下集落内の縦に長い標高約17mの河岸段丘縁辺部に立地し、東側是水田を経て米ノ津川が南流する。西側は狭い水田を挟んで上松遺跡が所在する。

主に、縄文土器片が採集され、縄文時代の遺跡である。なお、当遺跡地内には溝下古墳群（地下式板石積石室）が所在しているところから、周辺に古墳時代の遺跡存在することも予想される。

また、下郡山遺跡をはじめ上松遺跡、御堂異性気、庵木園遺跡が位置する当地は、標高約20m余の河岸段丘の縁辺部にあたり、それぞれが隣接する位置関係にあり広範囲に広がる遺跡群といえる。

15. 丸岡遺跡（第7・15図，図版4・12）

遺跡は出水市郊外の西側にあたる高尾野町との境、JR鹿児島本線沿いの標高約50m植樹園に所在する。この一帯は造園や園芸が営まれている。なお、地表面は細かな礫が露呈しこれらに混ざって土師器碗片や青磁片が採集された。古代から中世の遺跡である。

16. 西牟田遺跡（第7図，図版4・12）

遺跡は西出水駅と請願踏み切りの間、JR鹿児島本線に接した南側の畑地に位置する。遺跡地は果樹園となっており、縄文土器片、黒曜石片が散布している。縄文時代の遺跡である。

17. 並木下遺跡（第7図，図版5・13）

遺跡は、県道出水高尾野線とJR鹿児島線に挟まれた、大野原公民館の西側を中心に広がる果樹園に所在する。

土師器片や青磁片採集し、古墳時代から奈良・平安時代の遺跡である。

18. 太鼓橋遺跡（第7・15図，図版5・13）

遺跡は，高尾野町との境，県道出水高尾野線沿いの宅地に挟まれた狭い一筆の畑地である。貝殻条痕文土器が採集され，縄文時代の遺跡である。なお，周辺はかなりの宅地化が進んでいる。

19. 政所遺跡（第7図，図版5・13）

遺跡は，西出水駅の南，県道西出水停車場線沿いの屋敷畑に位置し，西側に緩やかに傾斜した微高地先端にあたる。

成川式土器が採集され，古墳時代の遺跡である。

20. 須山遺跡（第8図，図版5・13）

出水市の北，大口市との境，標高約500mの上場高原，上場小学校付近の上場遺跡を中心として上場高原一帯には旧石器時代の遺跡が広範囲に点在する。本遺跡は，上場小学校からさらに東，大口市との境，南側に緩やかに傾斜した畑地が遺跡である。黒曜石が多数採集されたが製品としての石器はなかった。上場旧石器時代の遺跡群の分布がさらに広がったことになる。

21. 大坪遺跡（第9図，図版6・13）

大坪遺跡は，老神遺跡の東，平良川によって形成された標高約41mの河岸段丘の台地縁辺部に位置する。この周辺は水田地帯で，すでに農地整備事業も済み，宅地化が進んでいる。

成川式土器片が採集され，古墳時代の遺跡である。

22. 八幡遺跡（第10図—15，図版6・13）

遺跡は出水市街地，箱崎八幡神社の西，統計情報事務所の東の屋敷畑（果樹園）に所在する。標高約32mの台地中央部に位置する。

成川式土器片や糸切り底土師器，青磁片などが採集され，古墳時代，中世の遺跡である。周辺は宅地化が進みつつある。

23. 一町樋遺跡（第10図，図版6・13）

遺跡は出水市野球場の南側，県道沖田・新蔵線に隣接した畑地に所在する。地形的には台地の先端部分にあたり，成川式土器片が採集され，古墳時代の遺跡である。

24. 成願寺遺跡（第10図，図版6・13）

遺跡は，出水警察署の南側にあたり，水田を隔てて一段高い，標高約20mの台地縁辺部に位置する。現在，水田や畑地が営まれ，縄文土器片や黒曜石片，成川式土器片が採集され，縄文時代，古墳時代の遺跡である。

25. 天神原遺跡（第10図，図版7・14）

遺跡は，出水小学校と出水小学校の北東部にあるグラウンドに挟まれた住宅地内の畑地及びグラウンド敷地に位置する。成川式土器片が採集され，古墳時代の遺跡である。

26. 並松遺跡（第10図，図版7・14）

遺跡は，JR鹿児島本線沿い出水機械センター東側の水田地にあたり，標高約20mの段丘先端部に位置し，当地から緩やかに市街地へ傾斜する。

遺物には，成川式土器片や土師器片，青磁片が採集され，古墳時代，奈良・平安時代の遺跡である。

27. 塚込遺跡（第10図，図版7・14）

遺跡は，春日神社西側の国道328号線沿い，向江跨線橋の北，北側に緩やかに傾斜する微高地の水田や樹木植栽地に位置する。

成川式土器片や黒曜石片が採集され，縄文時代，古墳時代の遺跡である。

28. 山王西遺跡（第10図，図版7・14）

遺跡は，出水工業高校の東側，標高約30mの台地先端部の水田地に位置する。遺跡は石坂・西町集落一帯の広範囲に広がる。

遺物には，成川式土器片、羽口の一部が採集され古墳時代の遺跡である。

29. 上桜ノ西遺跡（第11図，図版8・14）

遺跡は高尾野町との境，NEC工場の南側の茶畑，造園，果樹園に位置する。標高約75m前後の平坦な台地中央部にあたる。遺跡の規模は大きい。

縄文土器片や成川式土器片が採集され，縄文時代晩期，古墳時代の遺跡である。

30. 砂取遺跡（第11図，図版8・14）

遺跡は上桜ノ西遺跡の南側にあたり，平坦な台地が広がる牧草地，果樹園，茶畑に位置する。

遺物には，縄文土器片や黒曜石片が採集された。縄文晩期の遺跡である。

31. 出水ケ池遺跡（第11図，図版8・14）

遺跡は高尾野町との境，オレンジロードに隣接した標高約90mの台地の畑地に位置する。

遺物には，縄文土器片や黒曜石が採集され，縄文晩期の遺跡である。

32. 池ノ尾下遺跡（第11図，図版8・15）

遺跡は出水ケ池遺跡のオレンジロードを挟んだ対面のわずかに西に傾斜した畑地に位置する。周辺は果樹園となる。

遺物には，縄文土器片や黒曜石が採集され，縄文晩期の遺跡である。

33. 江川野口遺跡（第11図，図版9・15）

遺跡は栗毛野公民館の北側，標高約100mの台地先端部に位置する。台地の東側は急崖な河岸段丘が形成され平良川へと続く。遺跡は果樹園および畑地である。

遺物には，縄文土器片や黒曜石が採集され，縄文晩期の遺跡である。

34. 小野口遺跡（第11図，図版9・15）

遺跡は江川野口遺跡の南，出水煙草神社の北側の栗毛野集落の南端に位置する。

遺物には，縄文土器片が採集され，縄文晩期の遺跡である。

35. 片原遺跡（第12図，図版9・15）

遺跡は，出水市と大口市を結ぶ国道447号線沿い，広瀬川を隔てた北へ面した標高約60mの河岸段丘先端の水田地に位置する。この一帯は急峻な山が迫り広瀬川によって浸食された谷や河岸段丘が形成され，河岸段丘のわずかな平地に集落が営まれている。また，遺跡の南側には高川ダムがありそこから広瀬川へ流れこむ水脈によって谷が形成され，本遺跡と平渡遺跡が対峙している。

遺物には縄文土器片，黒曜石が採集され縄文時代の遺跡である。

36. 平渡遺跡（第12図，図版9・10・15）

遺跡は片原遺跡の西に隣接した河岸段丘の先端部に位置する。

遺物には黒曜石が採集され、縄文時代の遺跡である。

37. 金松遺跡（第13図，図版10・15）

遺跡は、標高約20mの台地中央部，出水ゴルフ場北側の果樹園及び茶畑の位置する。この一帯は戦時中の特攻基地のあった場所で周辺には掩蔽壕など戦跡遺構が残存している。なお、遺跡はゴルフ場まで広がるものと思われる。

遺物は、縄文土器片，黒曜石製の石鏃が採集され、縄文時代の遺跡である。

38. 田淵遺跡（第14・16図，図版10・15口絵）

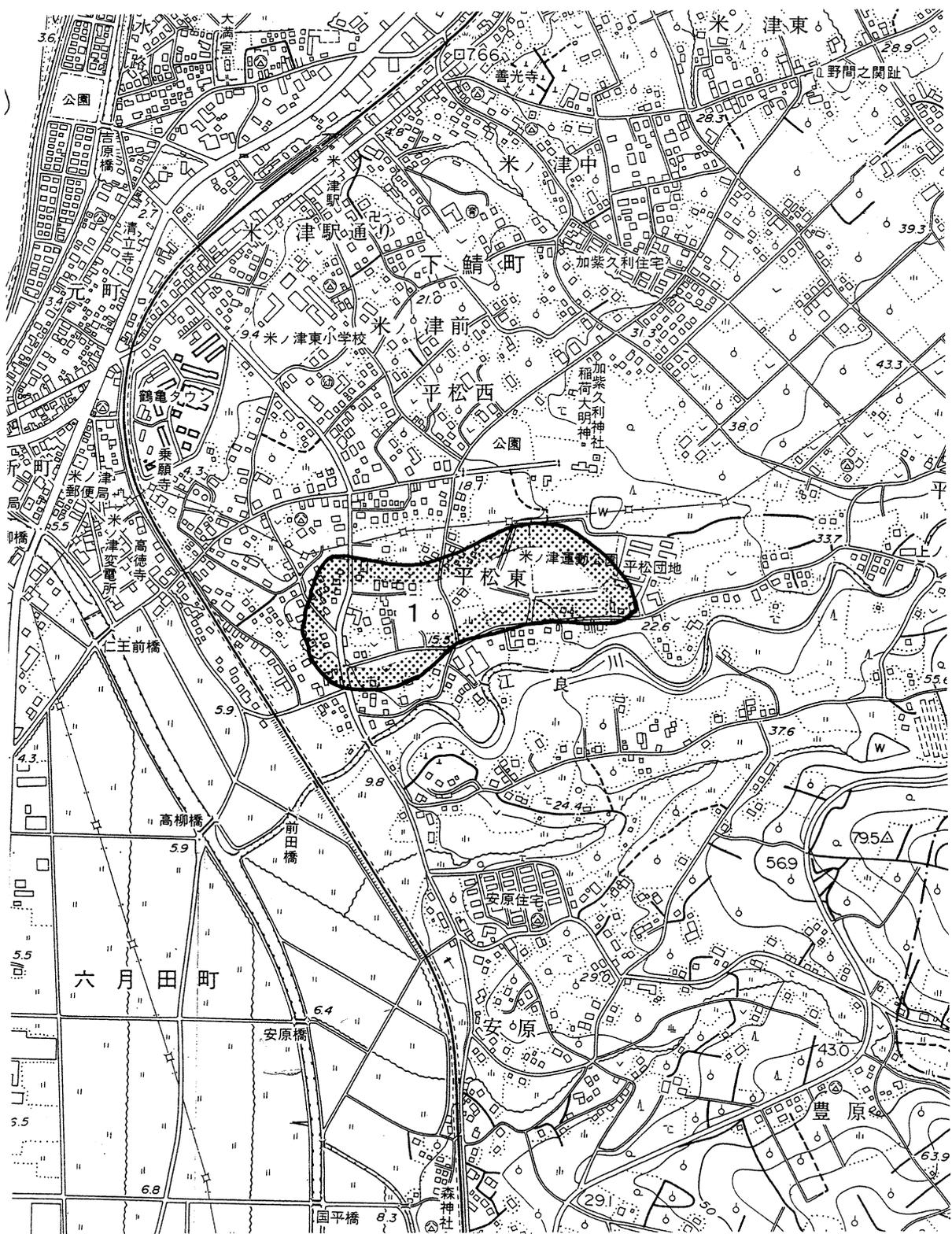
田淵遺跡は、高尾野町の出水市飛地，野田川と高尾野川に挟まれた南から北へ延びた丘陵先端の西，国道3号線の南側に位置し，北側先端部には荘貝塚が所在する。遺跡の西側には野田川が北流し肥沃な標高約4mの水田地帯となる。

田淵遺跡には、円墳状の「塚」と「貝塚」がある。塚は、水田との比高差約2mの台地先端部に位置している。表面調査の結果，高さは約3m，径は約5mの円墳状の土盛りとなる。北側の一部がわずかに崩壊しているが，ほぼ原形を留めていると思われる。また塚周辺に拳大の石が多数置かれている。頂部には「田の神」が鎮座している。塚の東側は畑地から縄文前期の曾畑式土器や弥生中期，7世紀相当の須恵器の高台坏椀・蓋，土師器，黒曜石など採集された。

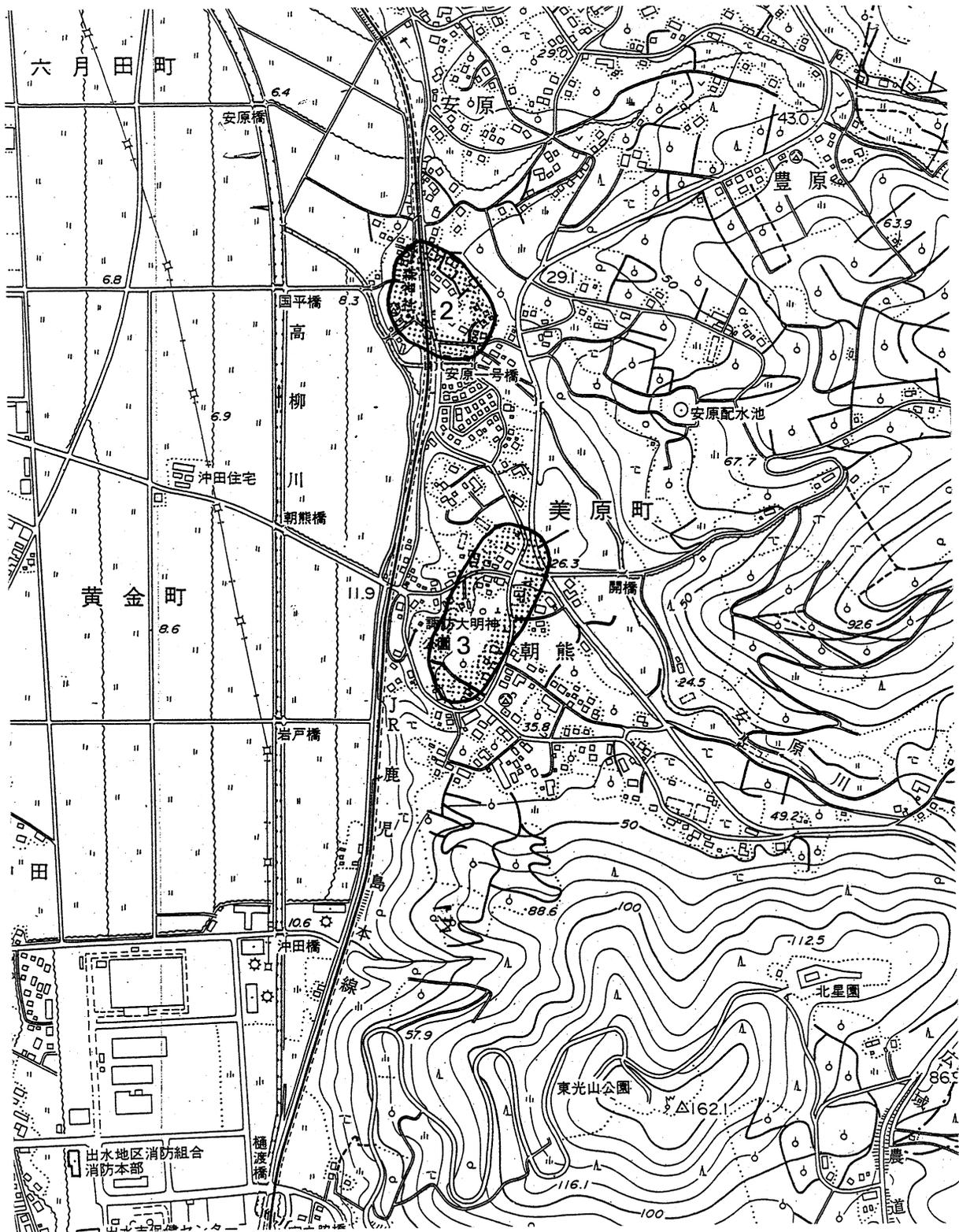
貝塚は，この塚から10mほど北西の地点に所在する。貝塚が確認された地点は，微高地に水田が入り込んだ奥まった標高約4mの台地縁地部にあたる。現在は造園地で，地表面に貝殻や土器片が小範囲に散在している。悉皆調査の結果，小規模な貝塚と思われる。

遺物には，縄文時代後期の市来式土器片やハマグリなど採集された。

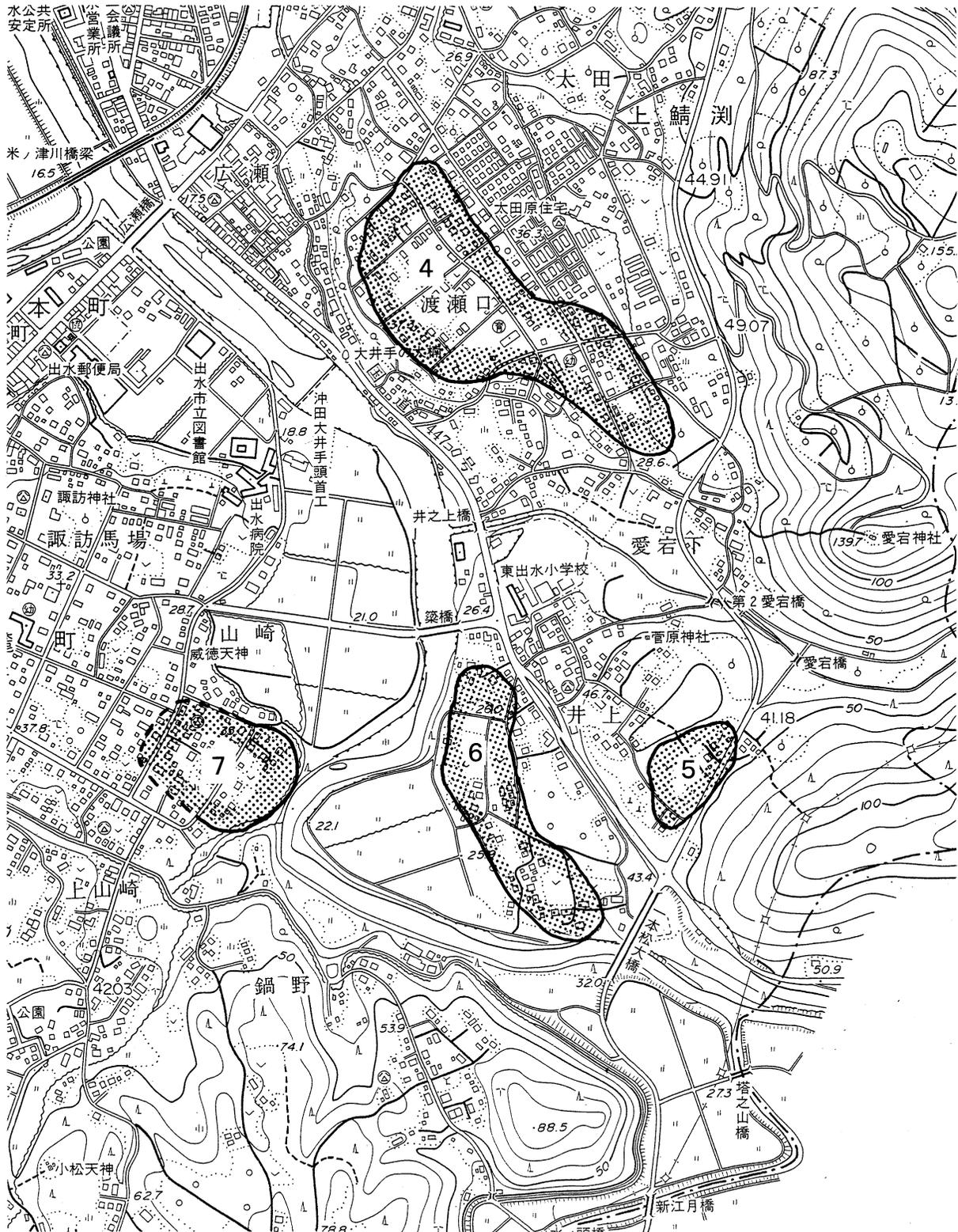
縄文時代後期の貝塚と推定される。



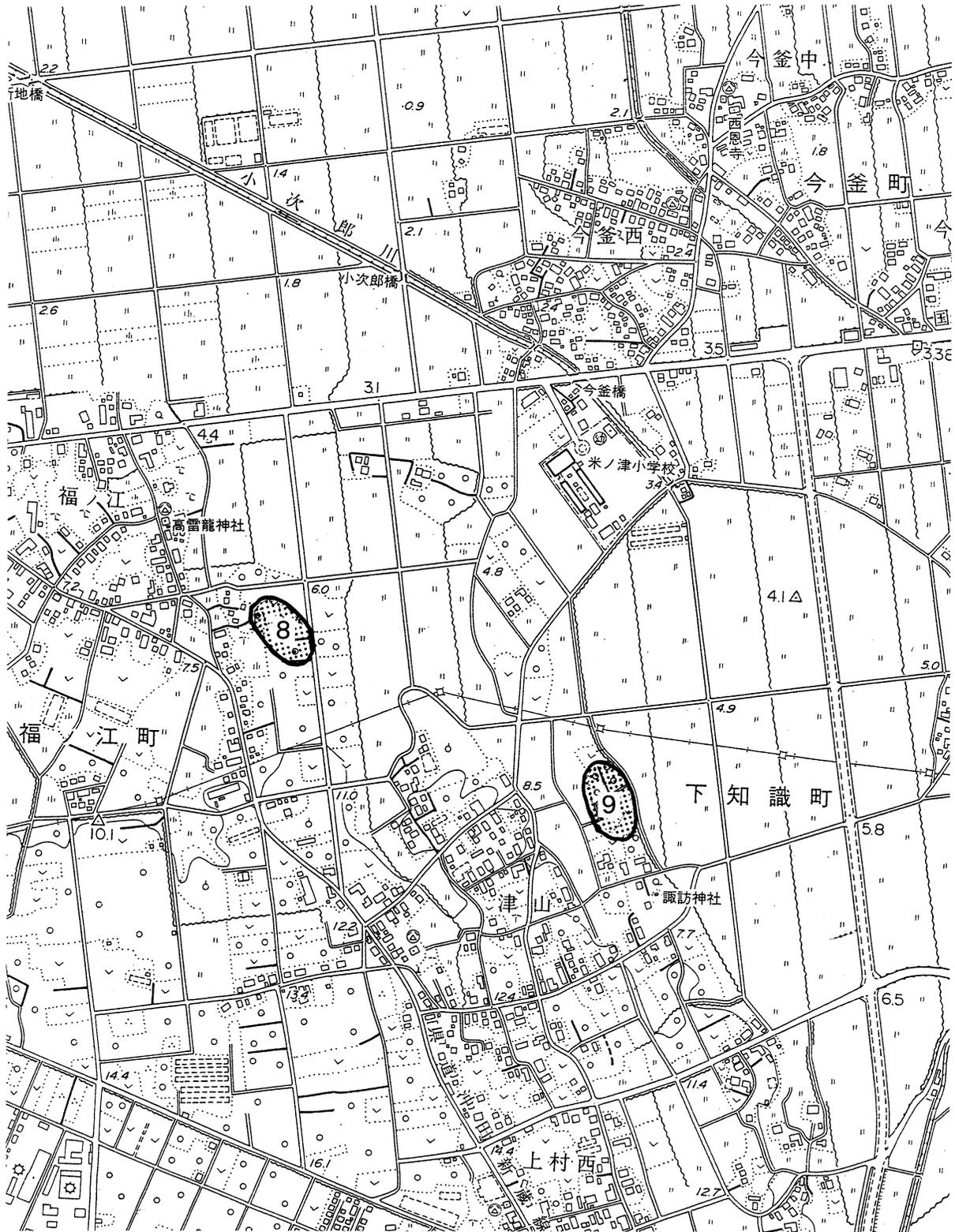
第1図 1—平松遺跡



第2図 2—鏡遺跡, 3—諏訪後遺跡



第3図 4—井手ノ原遺跡, 5—御所園原遺跡
6—鯖淵遺跡, 7—水天上遺跡



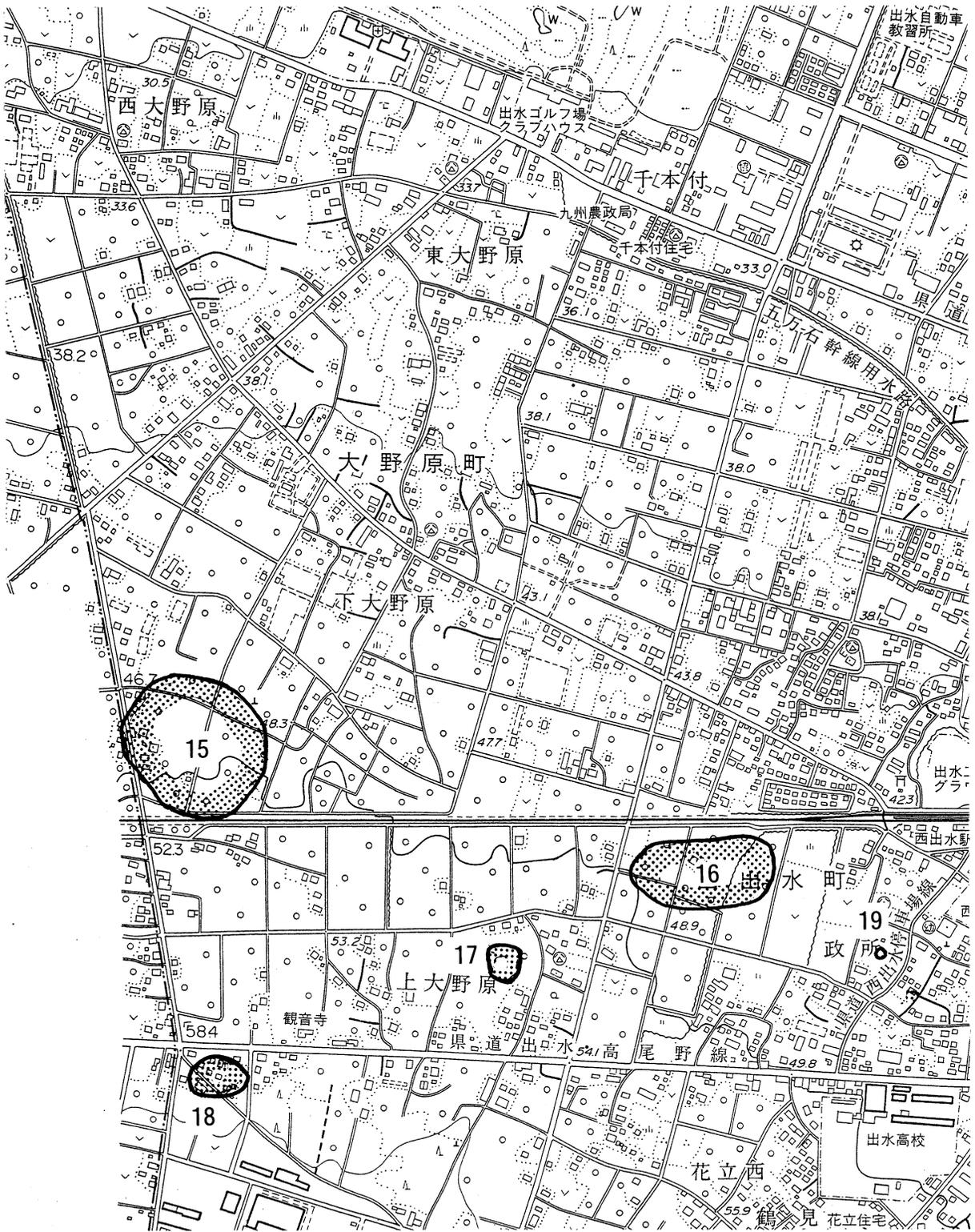
第4図 8—長松寺遺跡, 9—西宮ノ脇遺跡



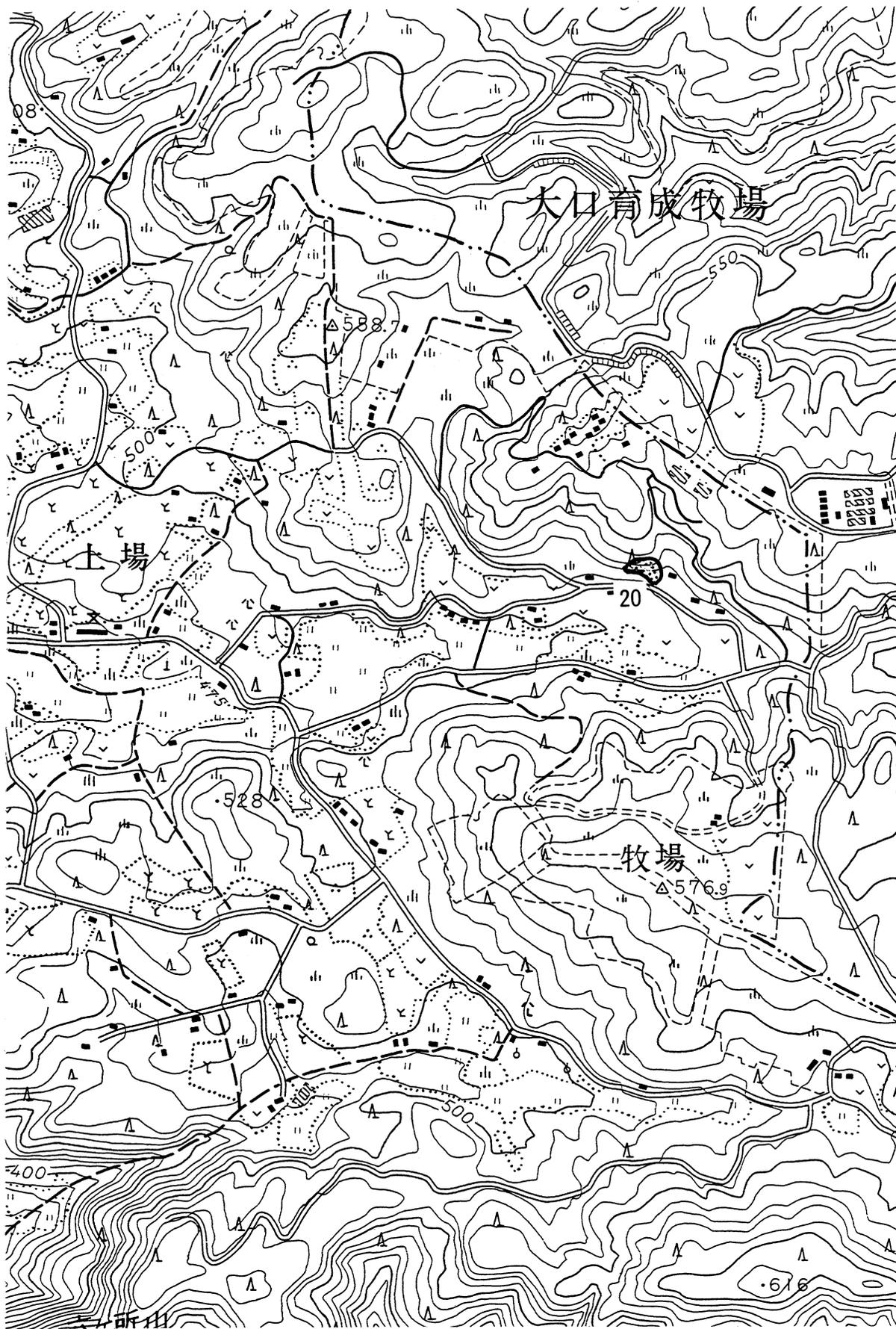
第5図 10—新蔵遺跡



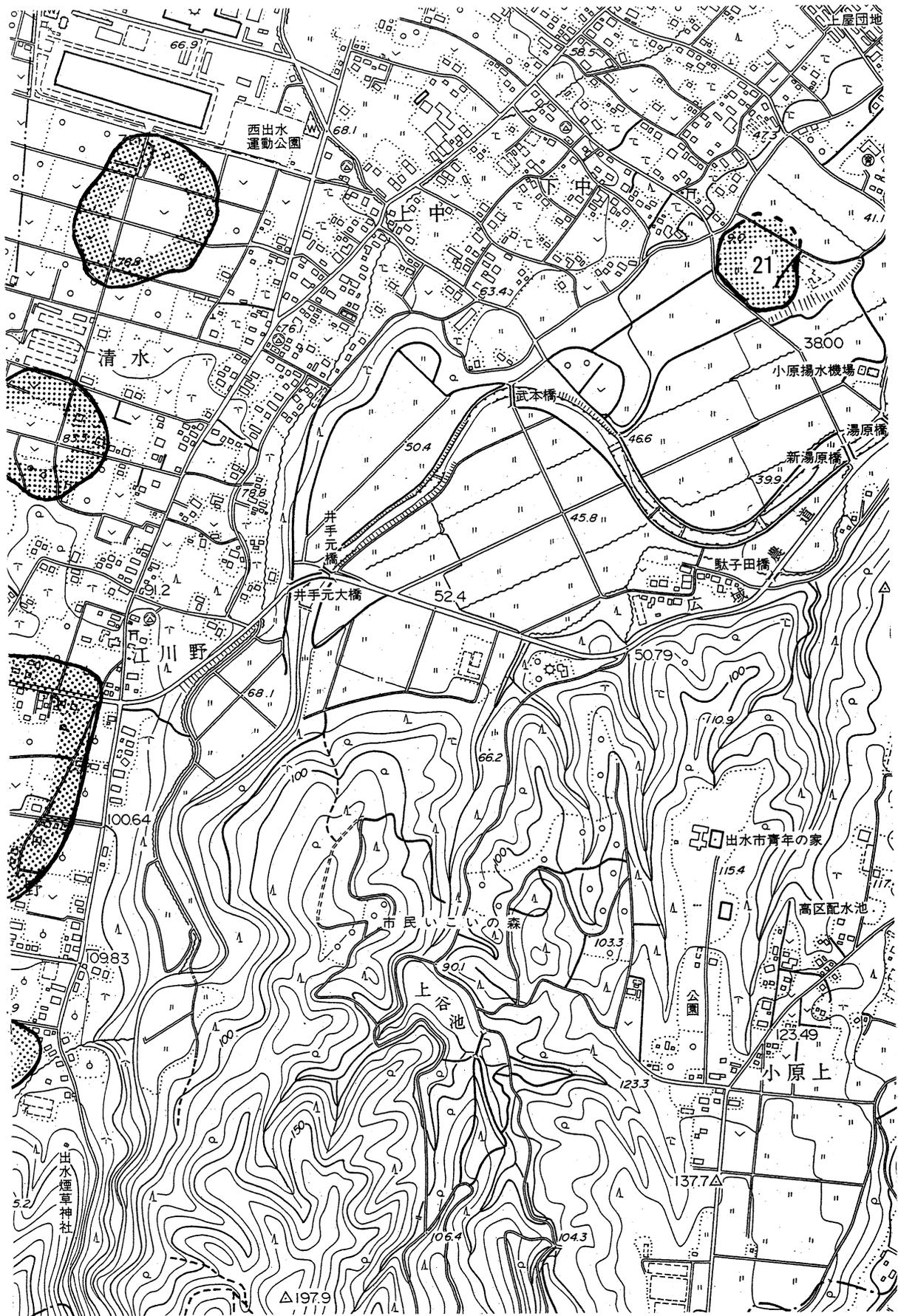
第6図 11—御堂遺跡, 12—庵木園遺跡
13—上松遺跡, 14—下郡山遺跡



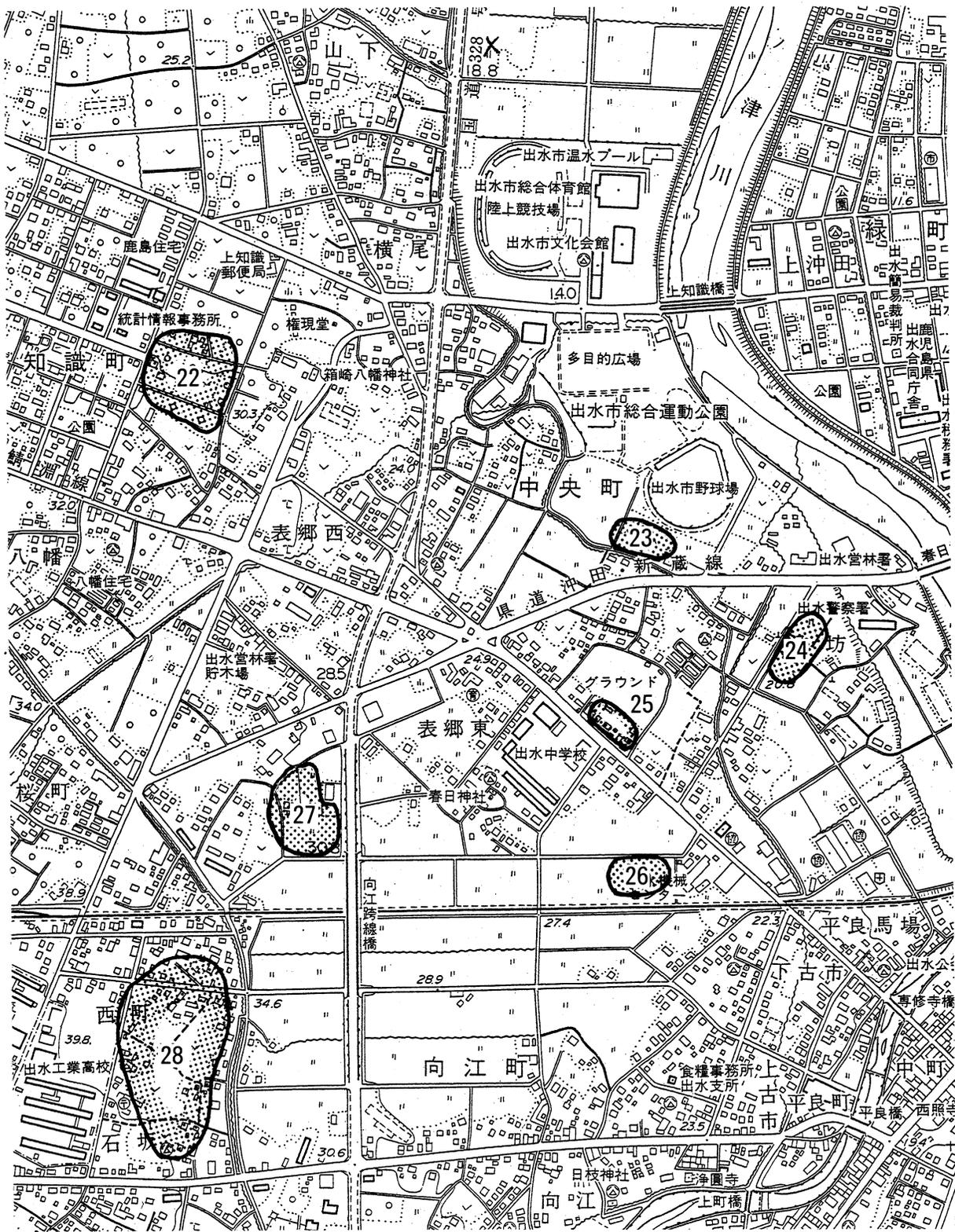
第7図 15—丸岡遺跡, 16—西牟田遺跡, 17—並木下遺跡
 18—太鼓橋遺跡, 19—政所遺跡



第8図 20—須山遺跡



第9図 21—大坪遺跡



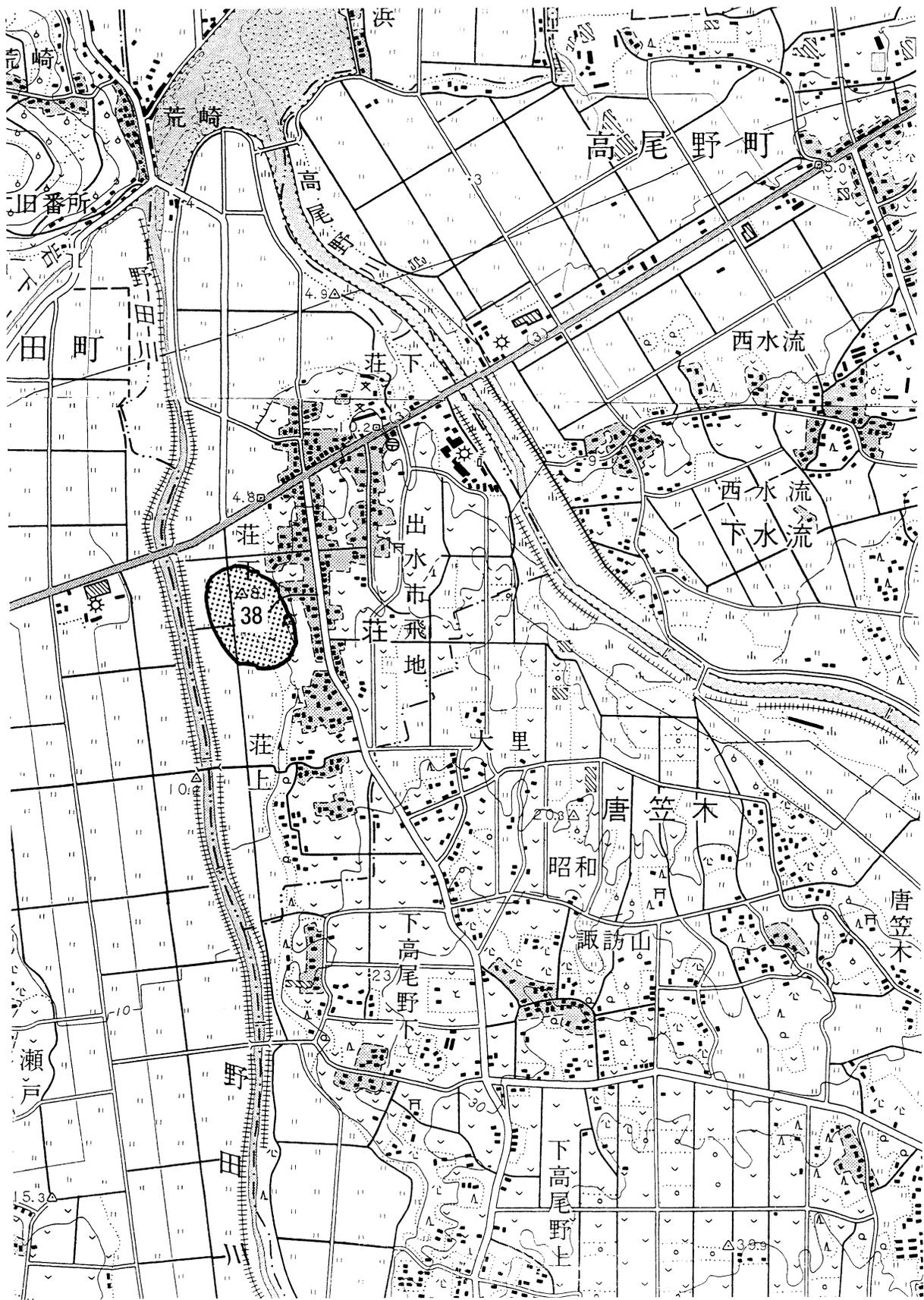
第10図 22—八幡遺跡, 23—一町遺跡, 24—成願寺遺跡
 25—天神原遺跡, 26—並松遺跡, 27—塚込遺跡, 28—山王西遺跡



第12図 35—江川野口遺跡, 36—小野口遺跡



第13図 37—金松遺跡



第14図 38—田淵遺跡



1. 平松遺跡



3. 諏訪後遺跡



4. 井手ノ原遺跡



5. 後所園原遺跡



6. 鯖淵遺跡



7. 水天上遺跡



8. 長松寺遺跡



9. 西宮ノ脇遺跡



10. 新蔵遺跡



11. 御堂遺跡



12. 庵木園遺跡



13. 上松遺跡



14. 下郡山遺跡



15. 丸岡遺跡



16. 西牟田遺跡



17. 並木下遺跡



18. 太鼓橋遺跡



19. 政所遺跡



20. 須山遺跡



21. 大坪遺跡



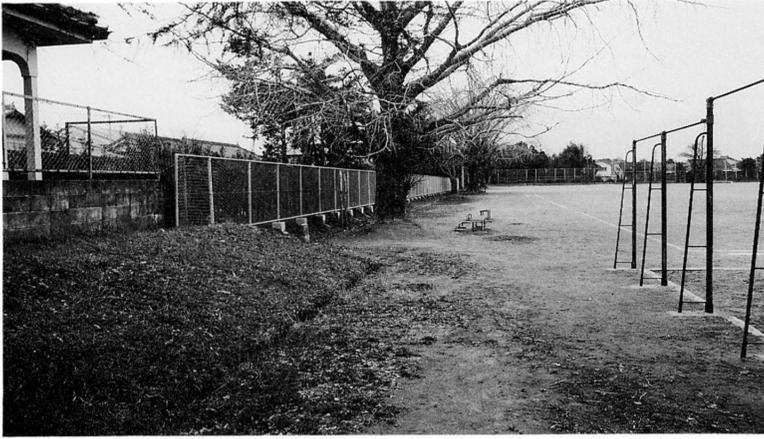
22. 八幡遺跡



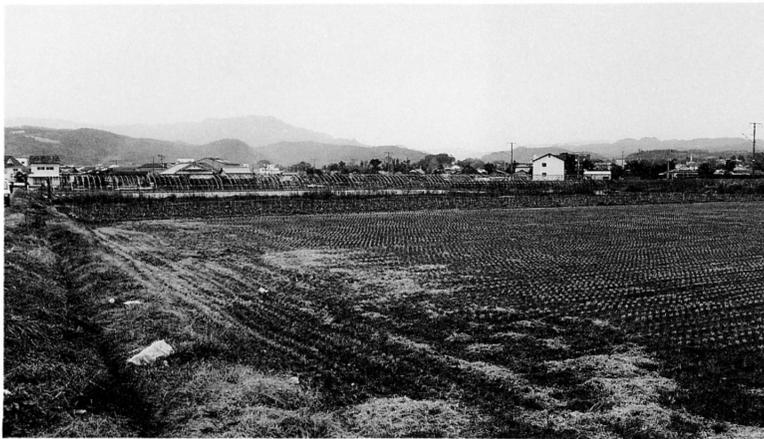
23. 一町樋遺跡



24. 成願寺遺跡



25. 天神原遺跡



26. 並松遺跡



27. 塚込遺跡



28. 山王西遺跡



29. 上桜ノ西遺跡



30. 砂取遺跡



31. 出水ヶ池遺跡



32. 池ノ尾下遺跡



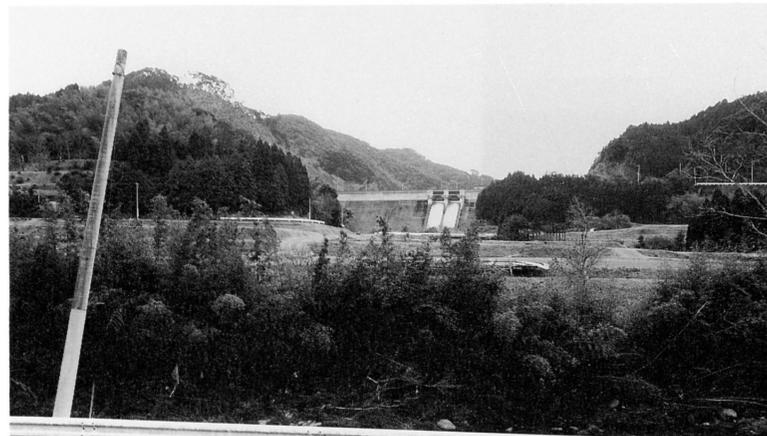
33. 江川野口遺跡



34. 小野口遺跡



35. 片原遺跡



35. 片原遺跡
36. 平瀬遺跡



36. 平瀬遺跡



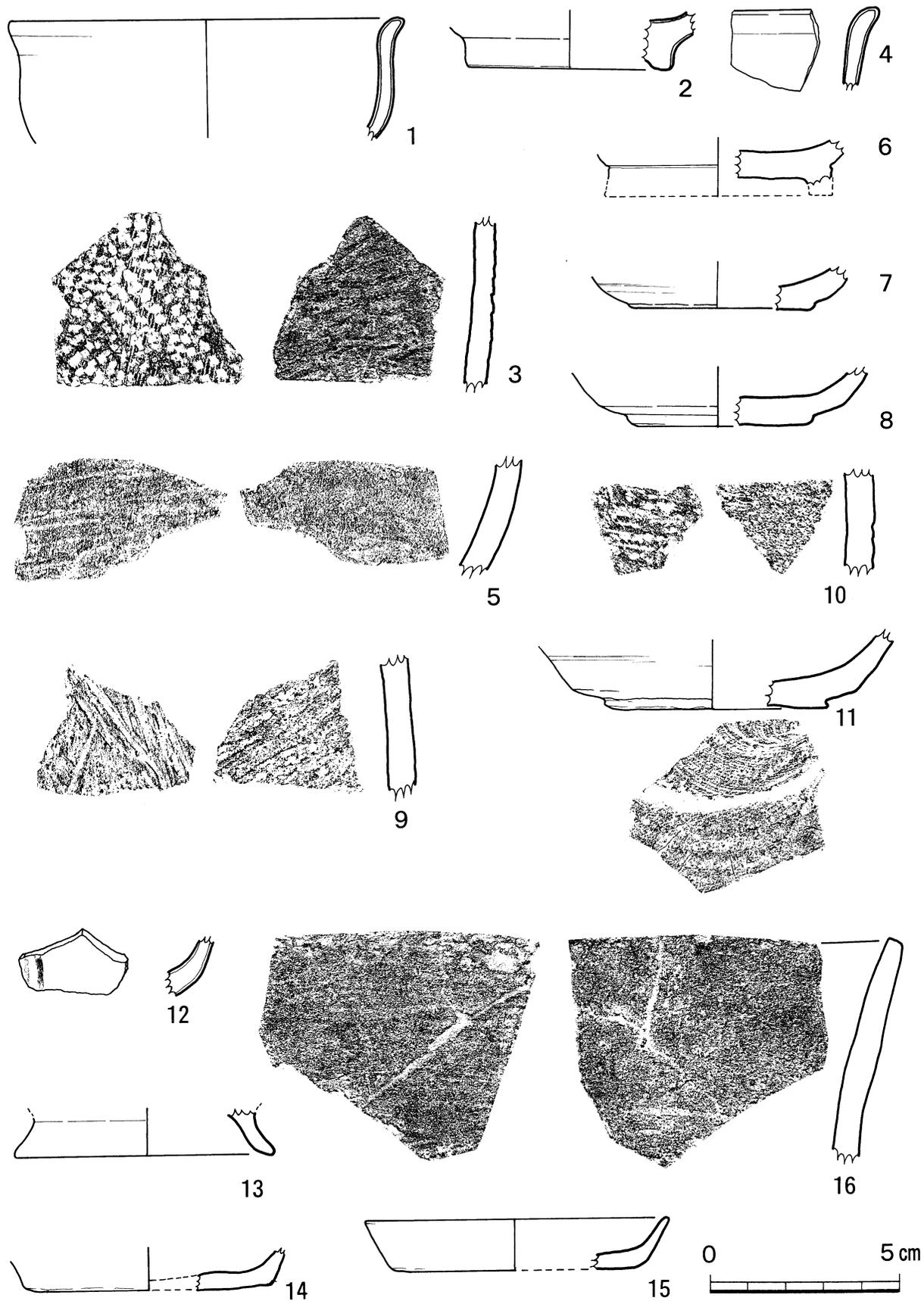
37. 金松遺跡



38. 田淵遺跡
(塚)

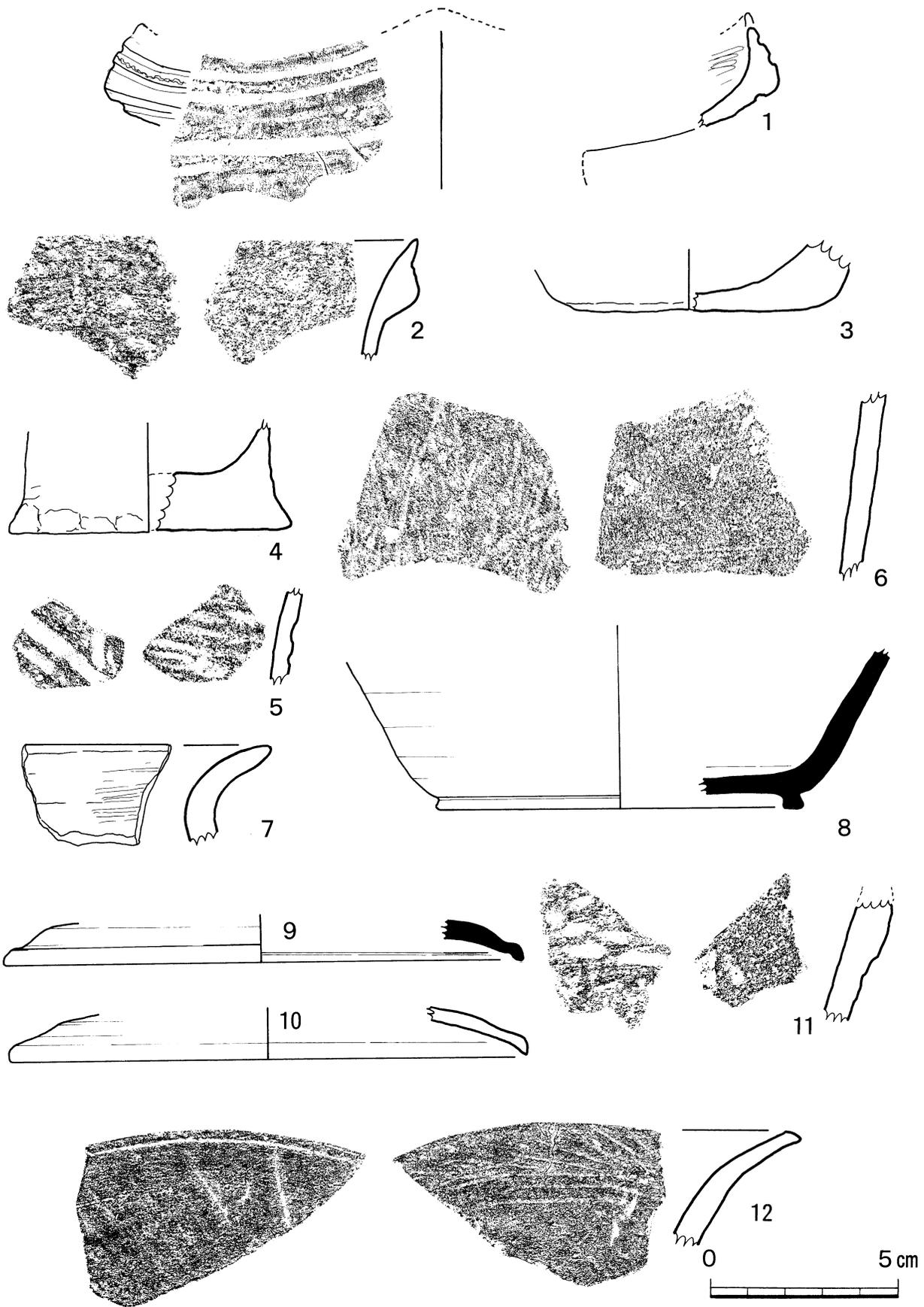


38. 田淵遺跡
(田淵貝塚)

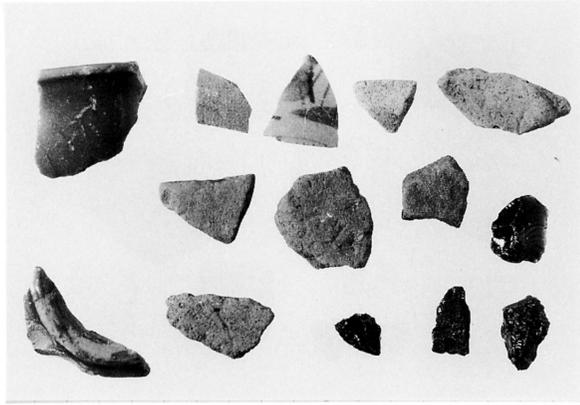


第15図 出水市表採遺物(1)

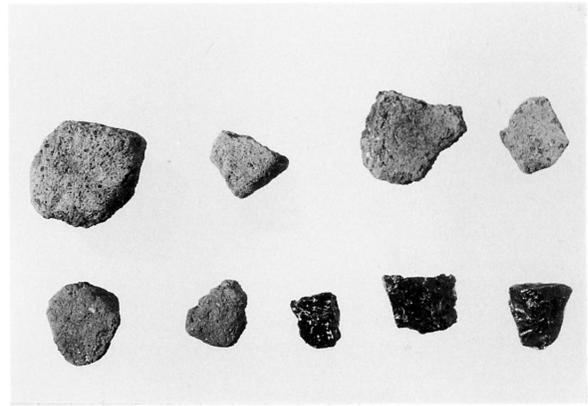
1・2 (平松遺跡), 3・4 (諏訪後遺跡), 5~8 (御堂遺跡), 9・10 (上松遺跡),
 11・12 (八幡遺跡), 13~15 (丸岡遺跡), 16 (太鼓橋遺跡)



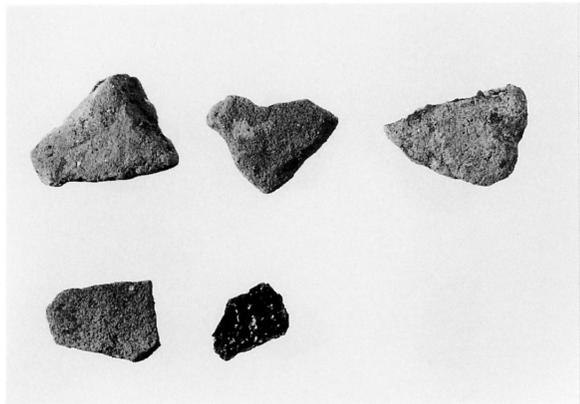
第16図 出水市表採遺物(2)
1~11(田淵遺跡), 12(庵木園遺跡)



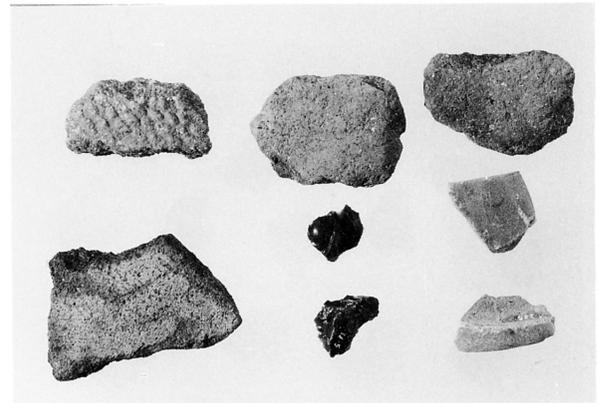
1. 平松遺跡



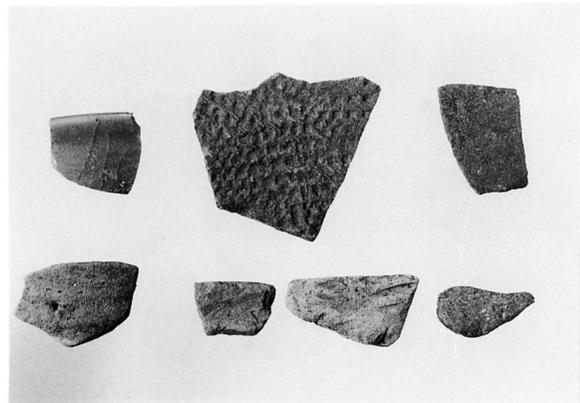
5. 後所園原遺跡



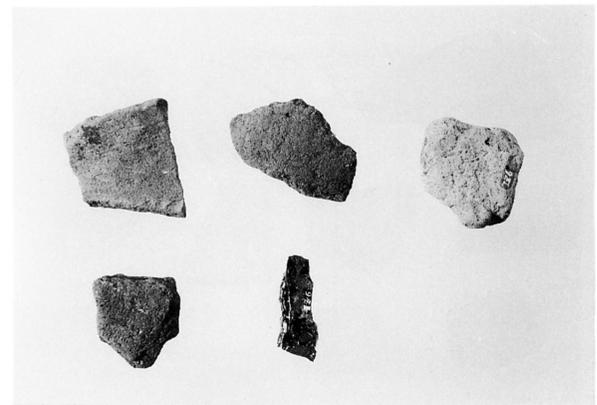
2. 鏡遺跡



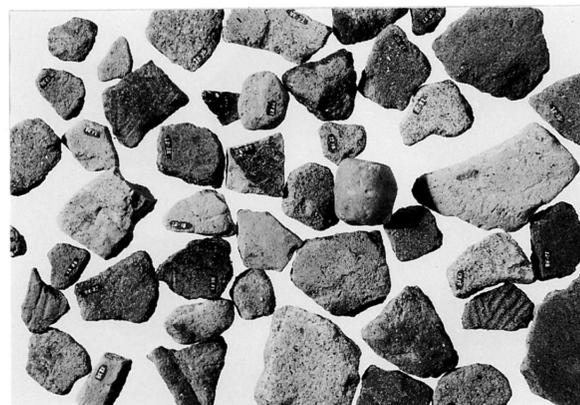
6. 鯖淵遺跡



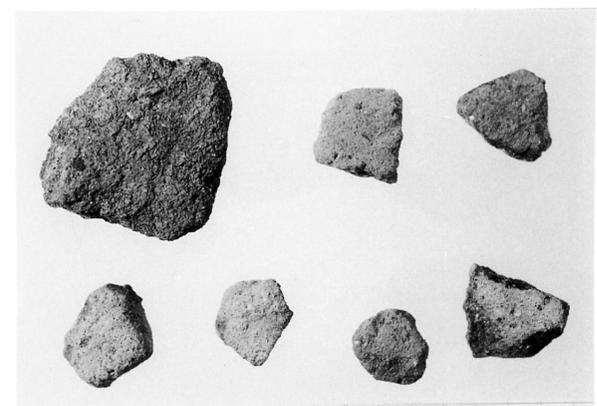
3. 諏訪後遺跡



7. 水天上遺跡

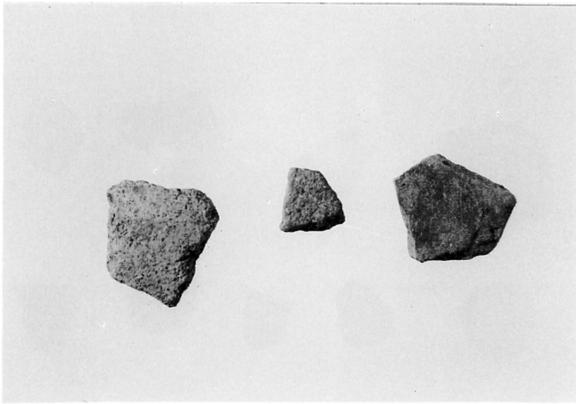


4. 井手ノ原遺跡

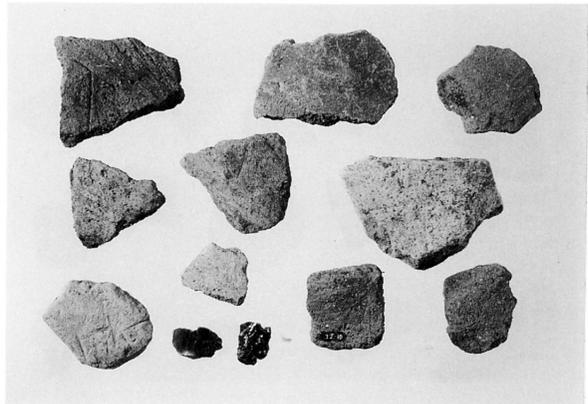


8. 長松寺遺跡

図版12 出水市採集遺物(2)



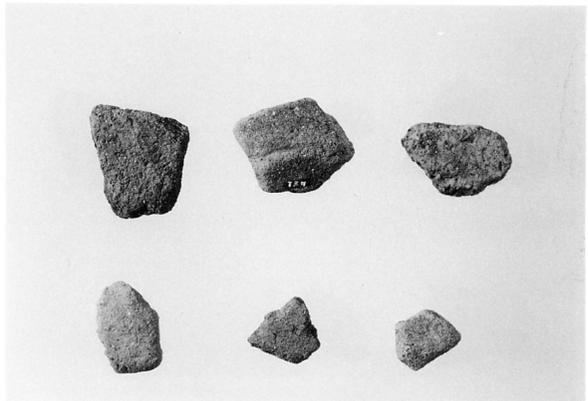
9. 西宮ノ脇遺跡



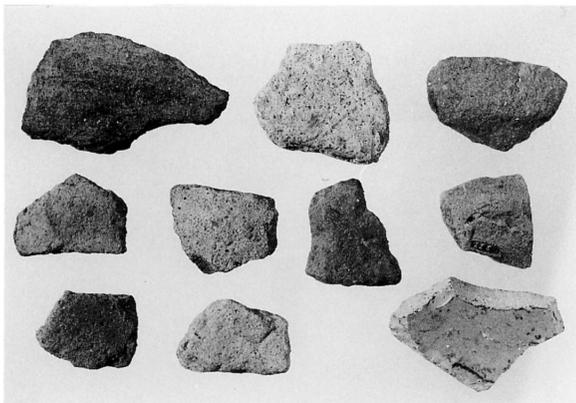
13. 上松遺跡



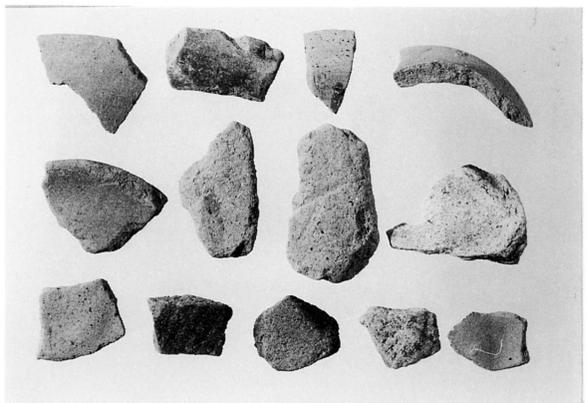
10. 新蔵遺跡



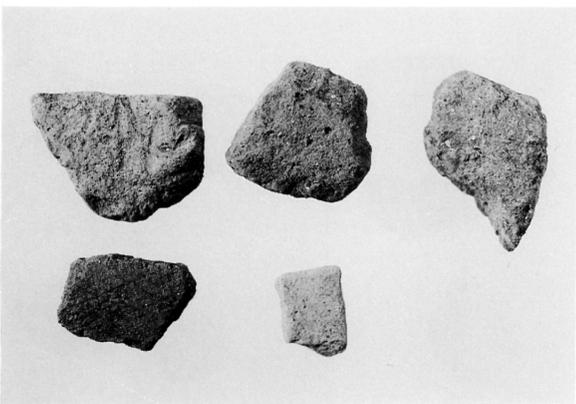
14. 下郡山遺跡



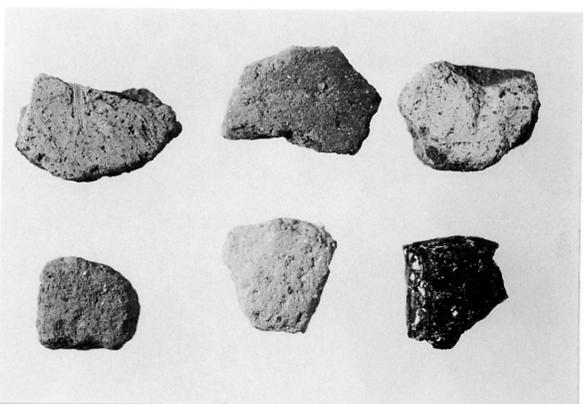
11. 御堂遺跡



15. 丸岡遺跡



12. 庵木園遺跡



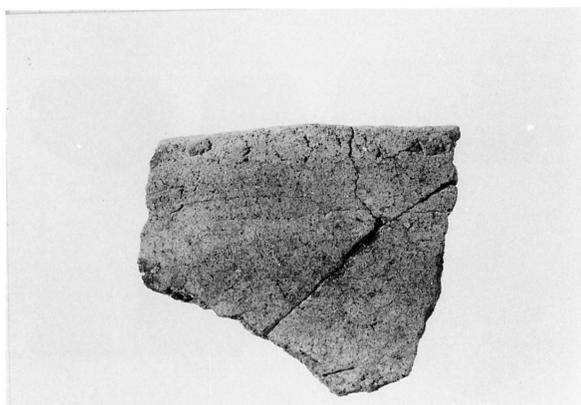
16. 西牟田遺跡



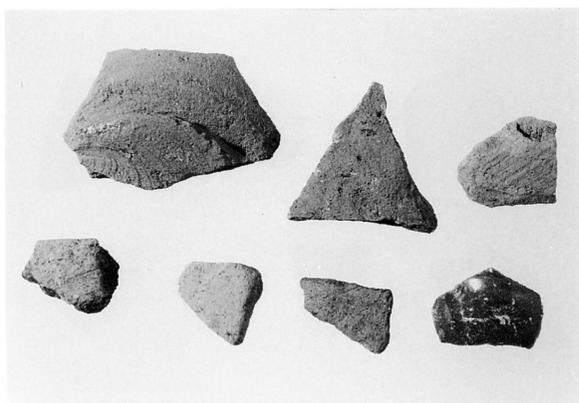
17. 並木下遺跡



21. 大坪遺跡



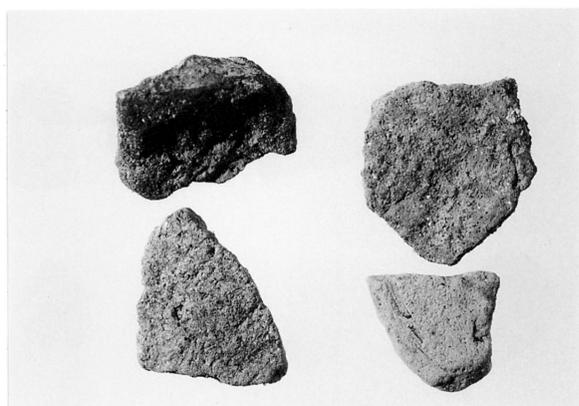
18. 太鼓橋遺跡



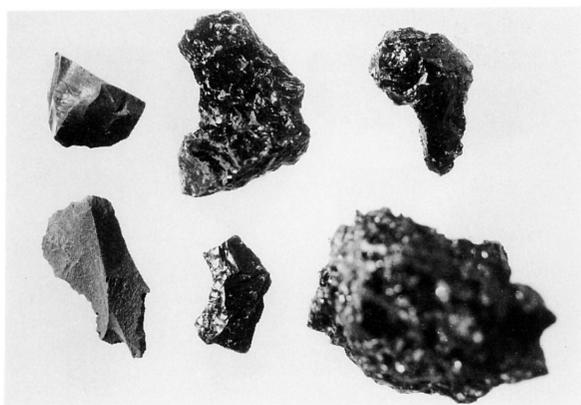
22. 八幡遺跡



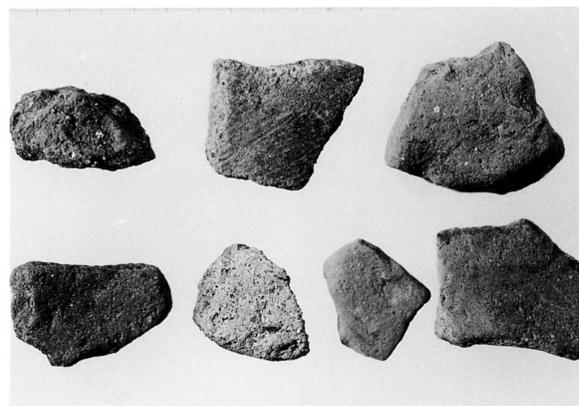
19. 政所遺跡



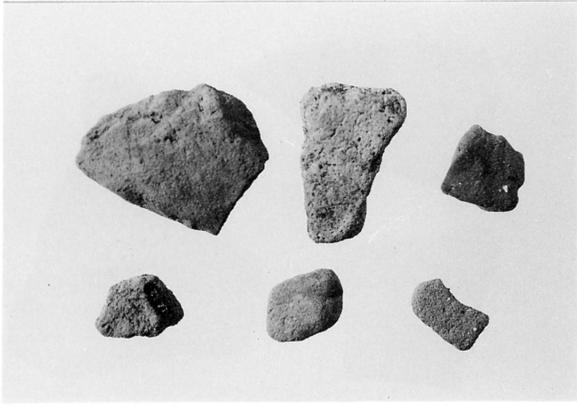
23. 一町樋遺跡



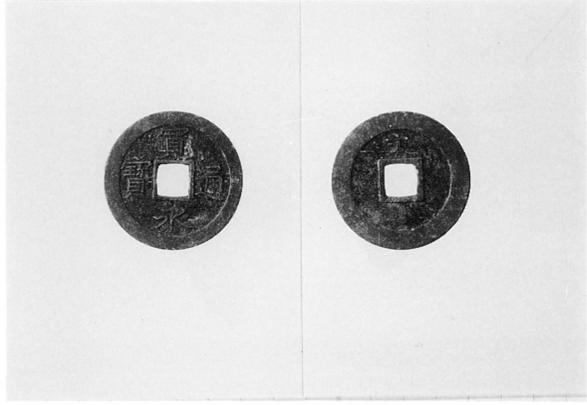
20. 須山遺跡



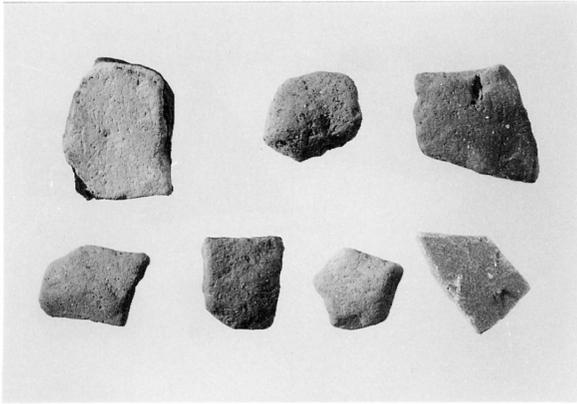
24. 成願寺遺跡



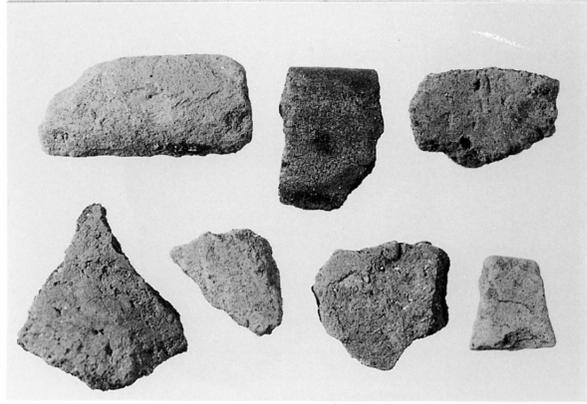
25. 天神原遺跡



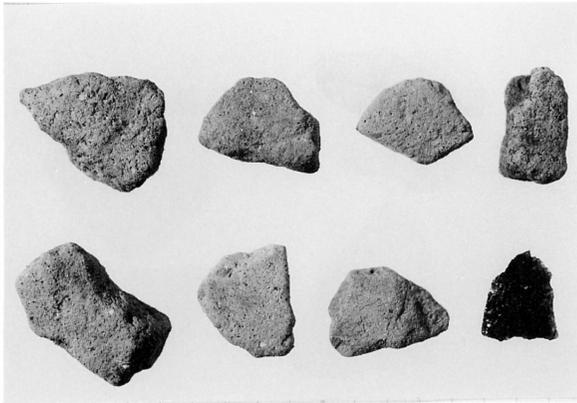
29. 上桜ノ西遺跡



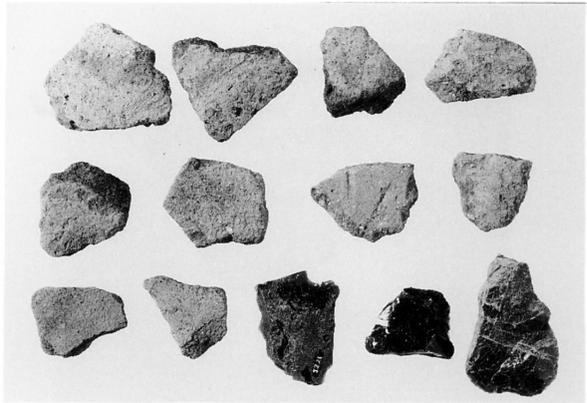
26. 並松遺跡



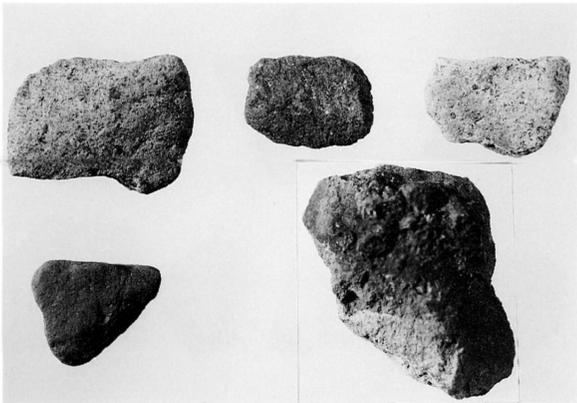
29. 上桜ノ西遺跡



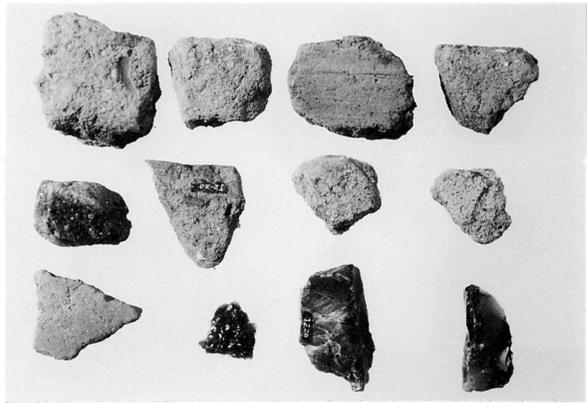
27. 塚込遺跡



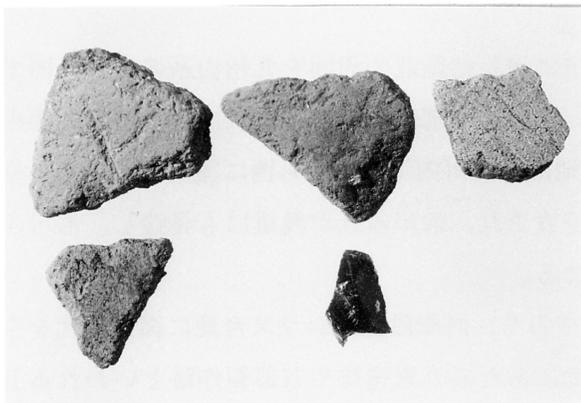
30. 砂取遺跡



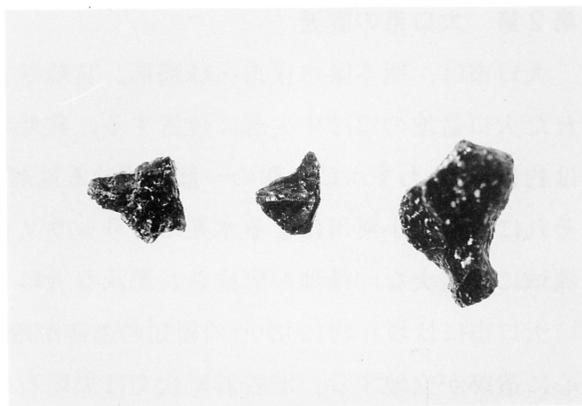
28. 山王西遺跡



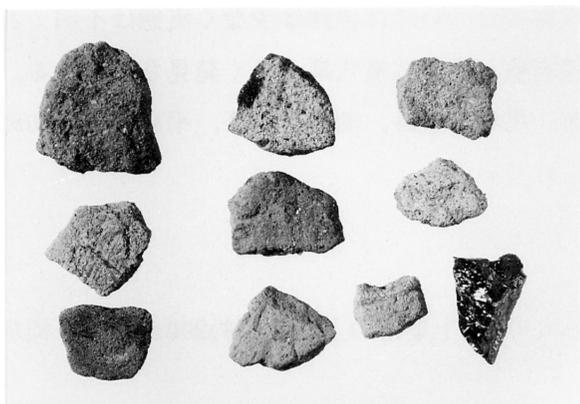
31. 出水ヶ池遺跡



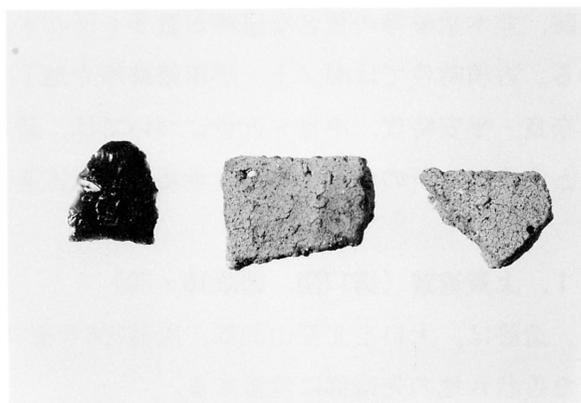
32. 池ノ尾下遺跡



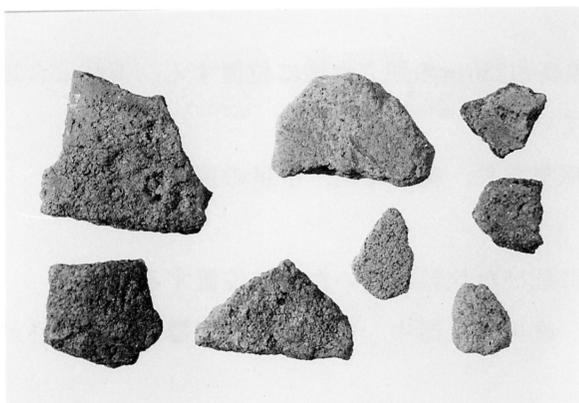
36. 平瀬遺跡



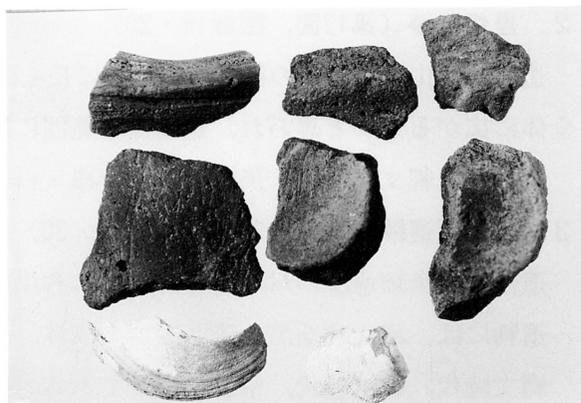
33. 江川野口遺跡



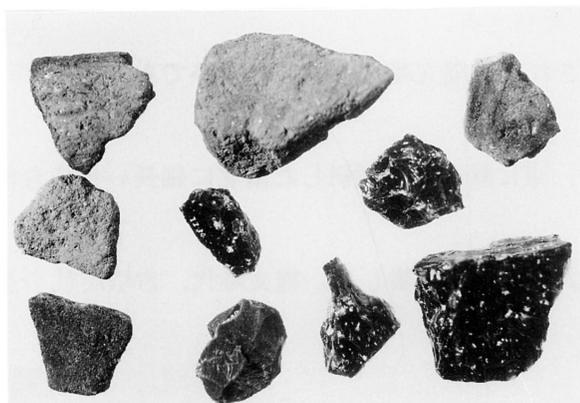
37. 金松遺跡



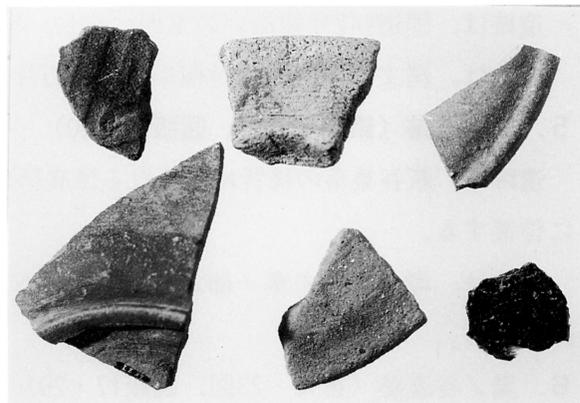
34. 小野口遺跡



38.



35. 片原遺跡



38.

第2節 大口市の調査

大口市は、熊本県水俣市・球磨郡、宮崎県えびの市に接した県北の周囲を九州山系の山々に囲まれた大口盆地のほぼ中央部に位置する。盆地の北部、西部、東部は山地に囲まれ、中央部での標高は約180m、わずかに南側の一部が開ける地形で、盆地南部は川内川が東から西に流れる、川内川やそれに注ぐ中小河川による水系によりシラス台地が浸食され、河岸段丘が幾重にも発達し、河川の流域には広大な沖積地が形成され肥沃な大口平野となる。

大口市には現在約120か所の周知の遺跡が確認されており、河岸段丘のシラス台地に縄文時代を中心に遺跡が立地する。旧石器時代では黒曜石の原産地にあたる日東遺跡や石器製作跡といわれる五女木遺跡等がある。縄文時代では、土器編年の標識遺跡である手向山遺跡、日勝山遺跡、塞ノ神遺跡、並木遺跡等の著名な遺跡が数多く所在する。弥生時代については遺跡は少なく実態は不明である。古墳時代では瀬ノ上・平田遺跡等や地下式板石積石室・地下式横穴墓が多く発見されている。奈良・平安時代、中世～近世については、新平田遺跡、馬場A遺跡、淵辺火葬墓、平泉城跡を初めとする21か所の中世山城、近世墓の王城古墓等が知られている。

1. 上斉遺跡（第17図，図版16・20）

遺跡は、大口市北部山間部、国道268号線の東側沿い、尾ノ上集落の上、標高約200mの南に延びた舌状台地の先端部に位置する。

遺物は、縄文土器片や成川式土器片、黒曜石片が採集された。縄文時代、古墳時代の遺跡である。

2. 里畑遺跡（第17図，図版16・20）

遺跡は、山野中学校の後背地、東西に長く延びた標高約230mの独立台地に位置する。遺跡は台地全体に広がるものと思われ、遺物は広範囲に散布していた。

遺物は、縄文土器片、黒曜石片、青磁・白磁片が採集され、縄文時代、中世の遺跡である。

3. 千里原遺跡（第17・23図，図版16・20）

遺跡は、里畑遺跡の対岸、井立田川の右岸の南北に延びた比較的広い台地に位置する。

遺物には、縄文晩期黒色研磨土器の浅鉢、黒曜石、成川式土器片、青磁片、須恵器片が採集され縄文時代、古墳時代、中世の遺跡である。

4. 殿後遺跡（第18図，図版16・20）

遺跡は、国道447号線沿いの東西に細長い微高地に所在する。

遺物は、縄文土器片、染付碗片、黒曜石片が採集された。縄文時代、中世の遺跡である。

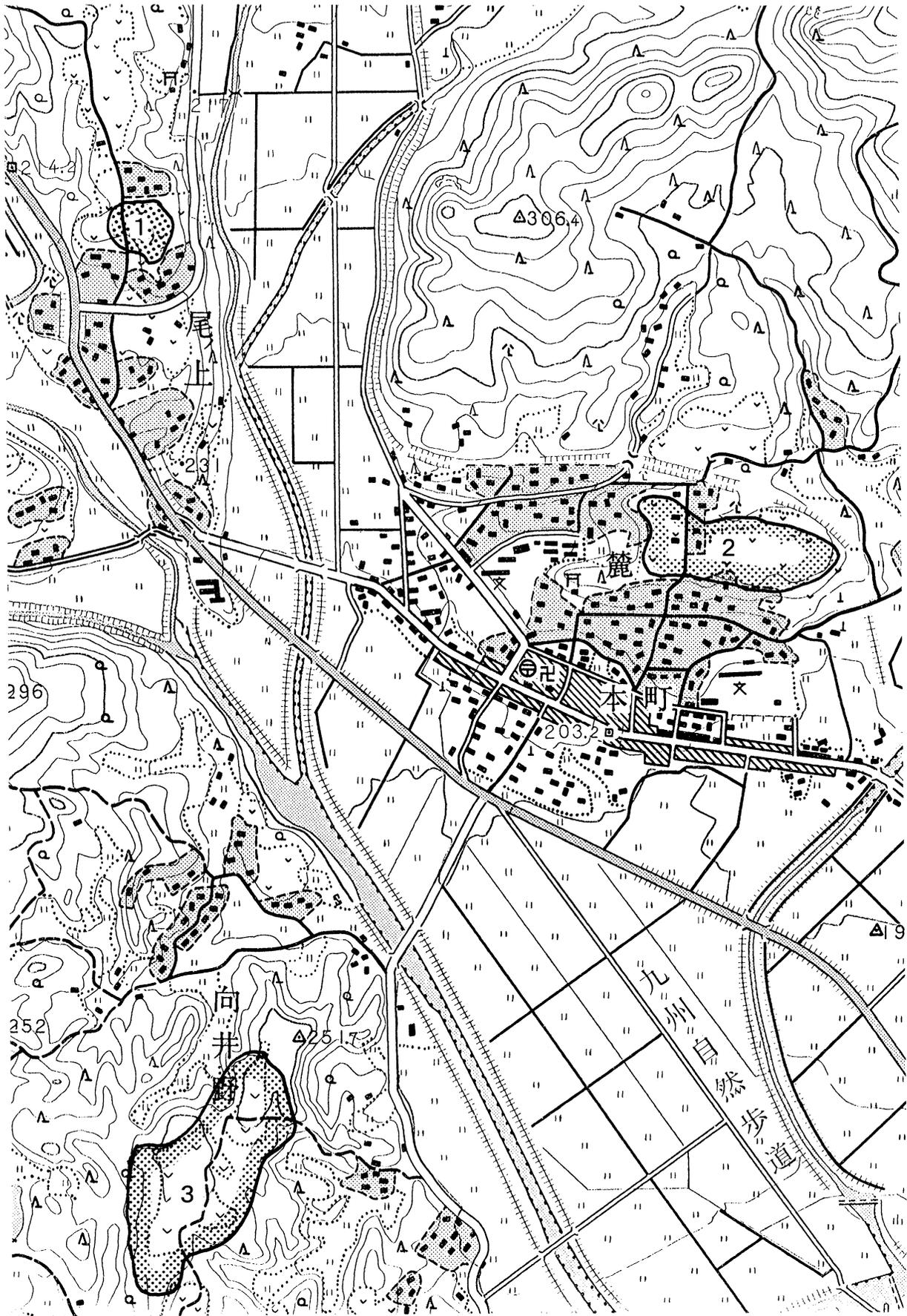
5. 萩谷遺跡（第18・23図，図版17・20）

遺跡は、萩谷集落の後背地にあたる標高約180mで、東に緩やかに傾斜した南北に細長い丘陵台地に位置する。

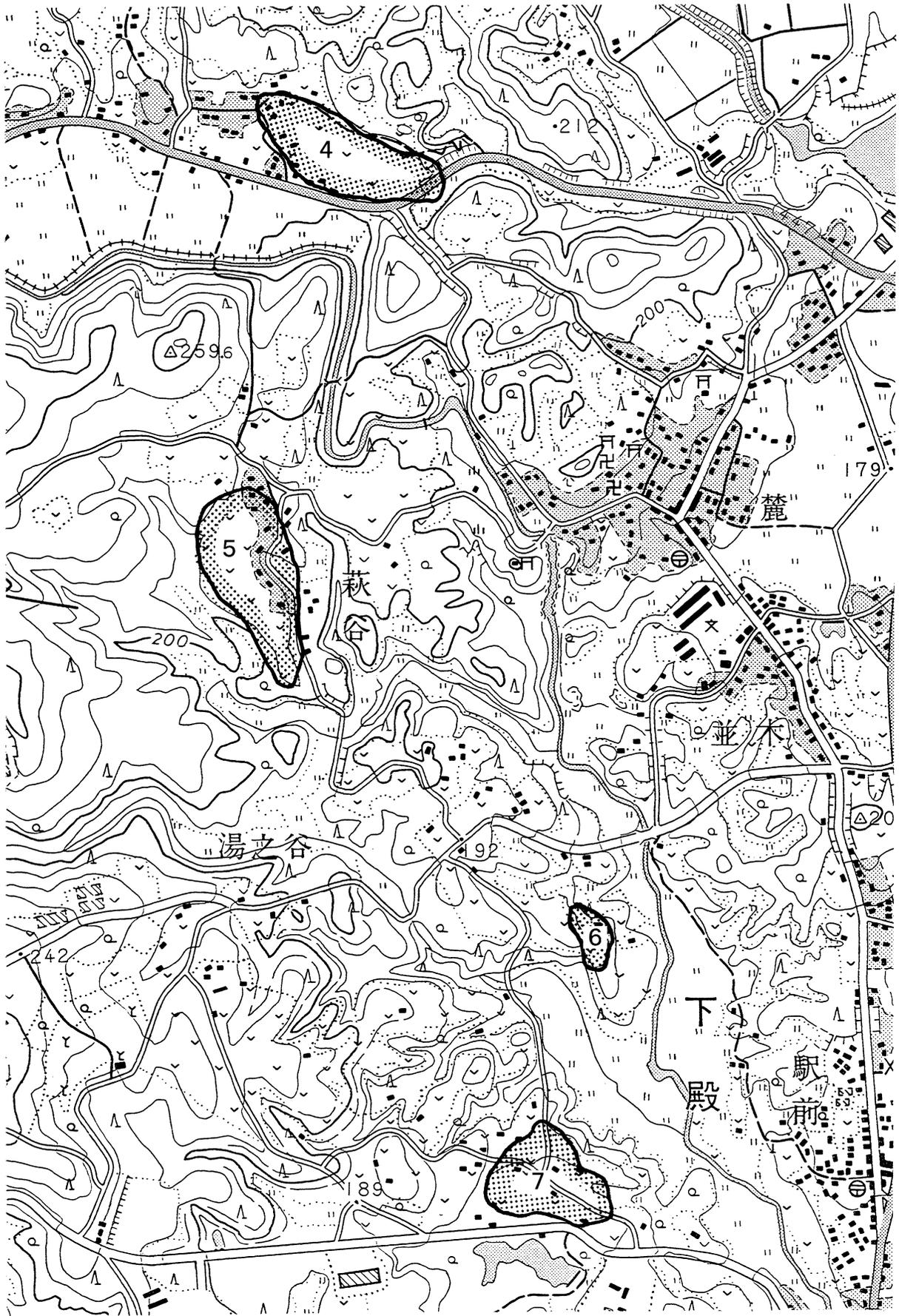
遺物は、縄文早期の塞ノ神式土器、黒曜石、成川式土器等、採集した。縄文時代、古墳時代の遺跡である。

6. 湯ノ谷遺跡（第18・23図，図版17・20）

遺跡は、南北に細長く延びた丘陵に位置し、周辺は水田が営まれている。



第17図 1—上齊遺跡, 2—里烟遺跡, 3—千里原遺跡



第18図 4—殿後遺跡, 5—萩谷遺跡, 6—湯ノ谷遺跡, 7—池ノ山遺跡



第19図 8—上尾下シ遺跡, 9—下尾下シ遺跡

遺物は、縄文時代前期曾畑式土器や黒曜石、染付椀片が採集された。縄文時代、中世の遺跡である。

7. 池ノ山遺跡（第18図・図版17・20）

遺跡は溜め池の北側、山裾の広い谷間いの畑地に所在する。

遺物は、縄文土器片、黒曜石が採集され、縄文時代の遺跡である。

8. 上尾下シ遺跡（第19図，図版17・20）

遺跡は、大口市済生会病院の南側、標高約180m山腹台地に位置する。東側で深い谷が形成されている。

遺物には、縄文土器片、黒曜石製の三角鏃、黒曜石を採集した。縄文時代の遺跡である。

9. 下尾下シ遺跡（第19図，図版18・21）

遺跡は、上尾下シ遺跡の南側に小谷を隔てた台地先端部の畑地に位置する。

遺物には、縄文土器片、黒曜石を採集した。縄文時代の遺跡である。

10. 木崎原遺跡（第20図，図版18・21）

遺跡は、牛尾小学校の南側、標高412mの高熊山から緩やかに傾斜しながら西に延びた標高約270mの舌状台地先端部に位置する。

遺物には、縄文土器片、黒曜石を採集した。縄文時代の遺跡である。

11. 大儀司遺跡（第20図，図版18・21）

遺跡は、南に延びた標高約240mの舌状台地に位置し、南西には大田の水田地帯を望む。

遺物には、縄文土器片、黒曜石を採集した。縄文時代の遺跡である。

12. 軍神ノ上遺跡（第20図，図版18・21）

遺跡は、神池の上の台地、西に面した台地縁辺部に所在する。

遺物には、縄文土器片、黒曜石を採集した。縄文時代の遺跡である。

13. 永山遺跡（第21図，図版19・21）

小木原集落から十曾池へ向かう途中の南へ大きく迫り出した標高約230mの舌状台地が遺跡である。台地周辺は浸食された深い谷や急崖となる。

遺物には、縄文土器片、黒曜石を採集した。縄文時代の遺跡である。

14. 小城遺跡（第21・23図，図版19・21）

遺跡は、牛尾川の右岸にあたる南に延びた舌状台地の先端部に所在する。

遺物には、黒曜石片多数を採集した。縄文時代の遺跡と思われる。

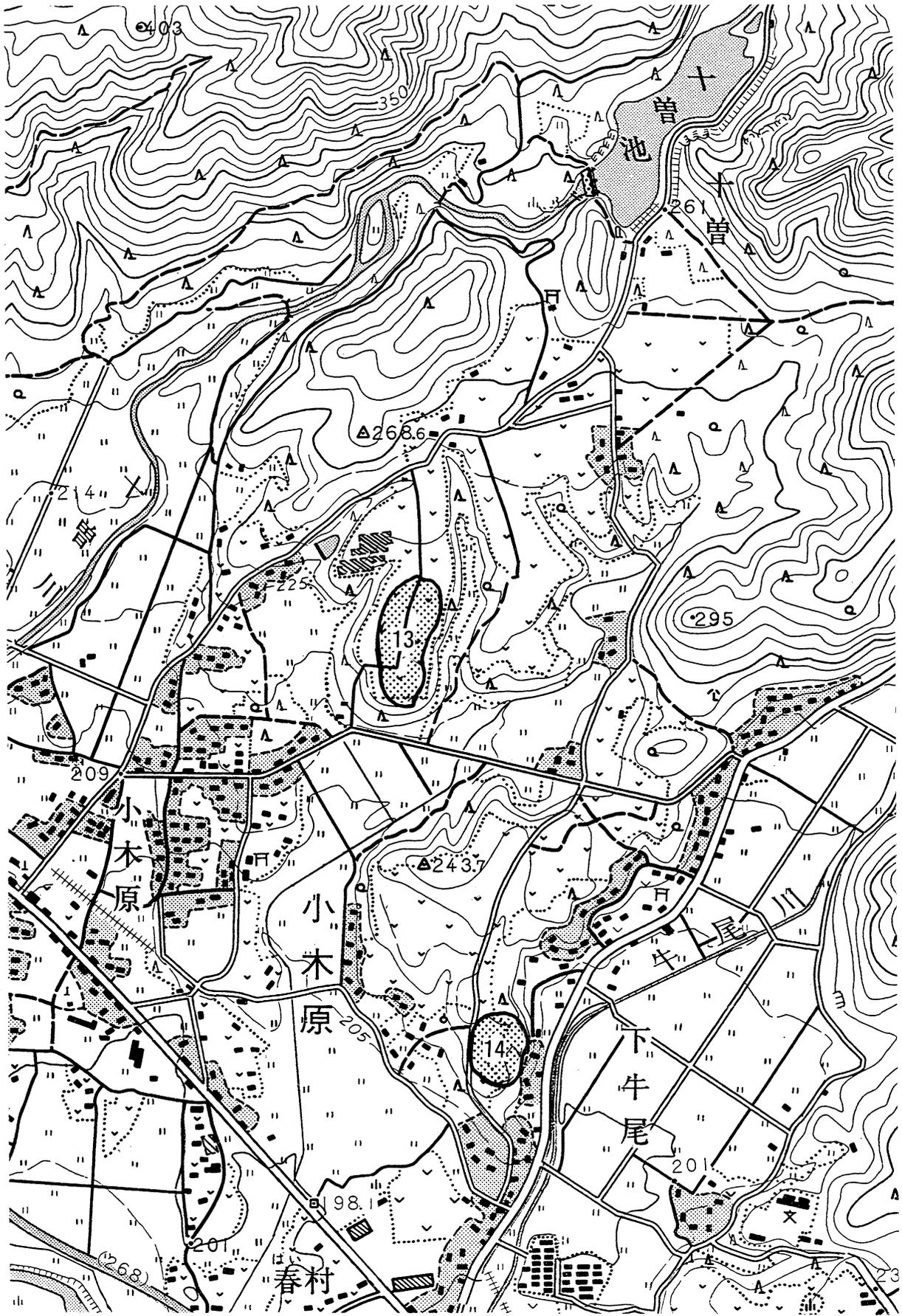
15. スワノ遺跡（第22図，図版19・21）

遺跡は、大口市からえびの市へ至る国道44線沿いの青木集落の北東部にあたる南に面した狭い台地の中央部に位置する。遺跡は小規模なものである。

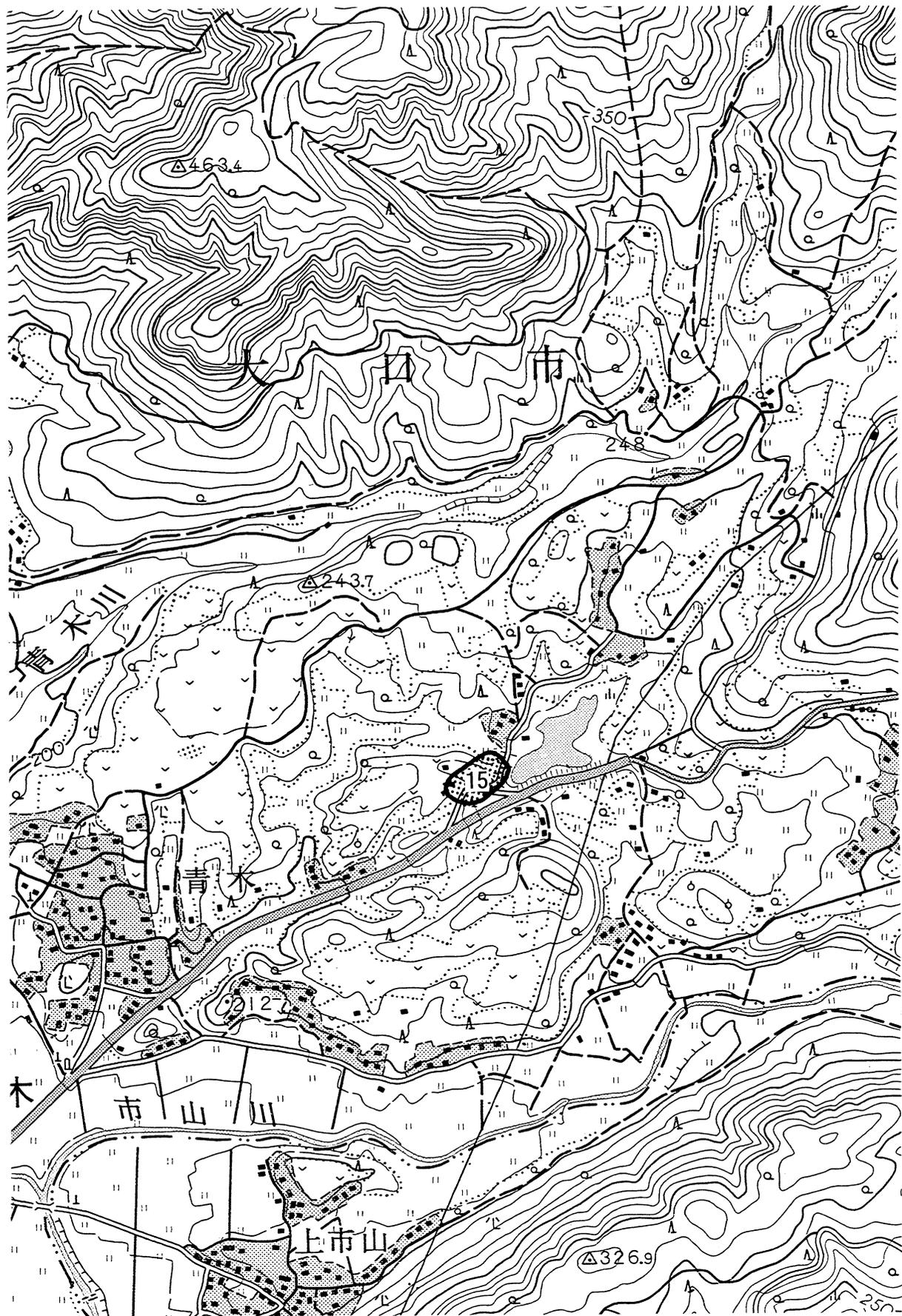
遺物には、縄文土器片、黒曜石を採集した。縄文時代の遺跡である。



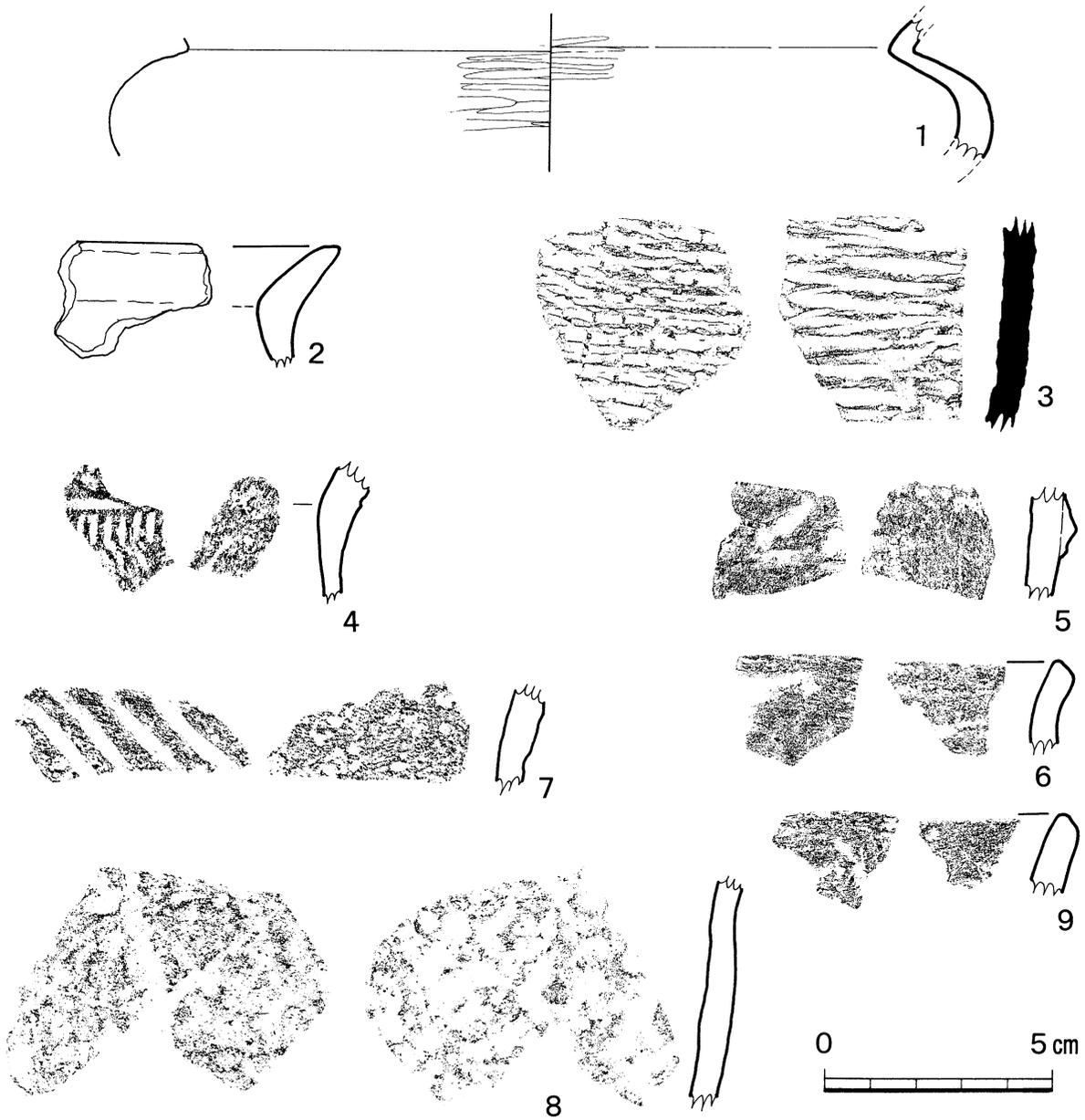
第20図 10—木崎原遺跡, 11—大儀司遺跡, 12—軍神ノ上遺跡



第21図 13—永山遺跡, 14—小城遺跡



第22図 15—スワノ前遺跡



第23図 大口市表採遺物

1～3 (千里原遺跡), 4～6 (萩谷遺跡)

7・8 (湯ノ谷遺跡), 9 (小城遺跡)



1. 上斉遺跡



2. 里畑遺跡



3. 千里原遺跡



4. 殿後遺跡



5. 萩谷遺跡



6. 湯ノ谷遺跡



7. 池ノ山遺跡



8. 上尾下シ遺跡



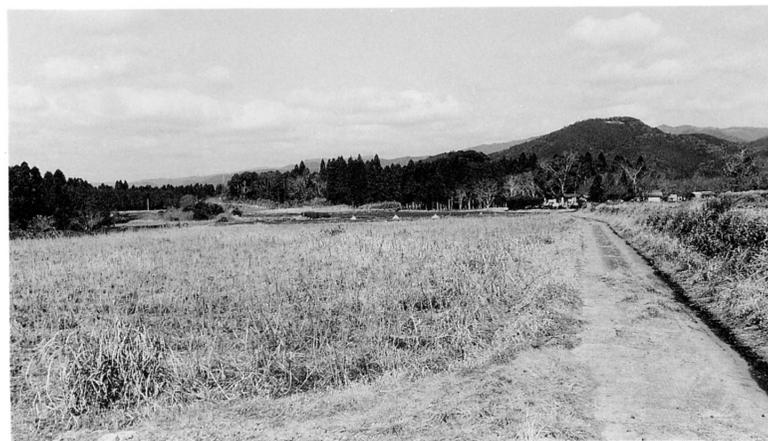
9. 下尾下シ遺跡



10. 木崎遺跡



11. 大儀遺跡



12. 軍神の上遺跡



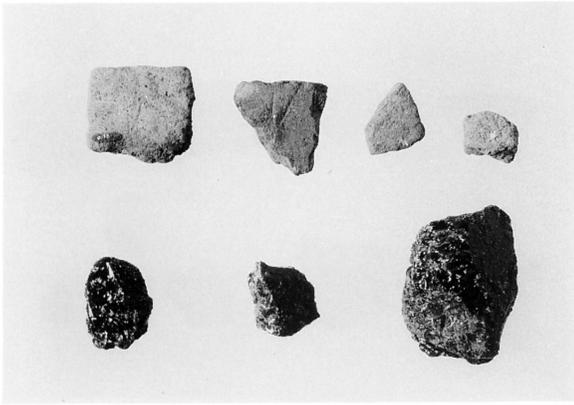
13. 永山遺跡



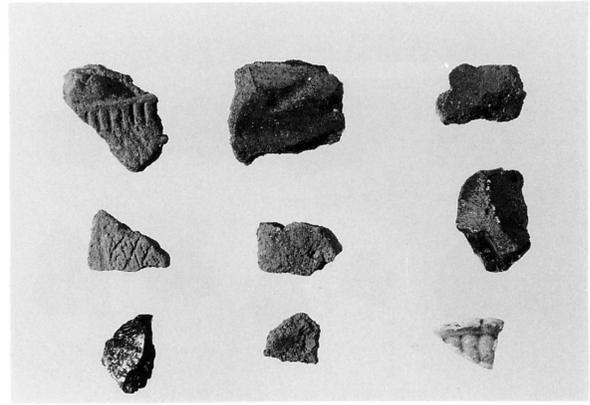
14. 小城遺跡



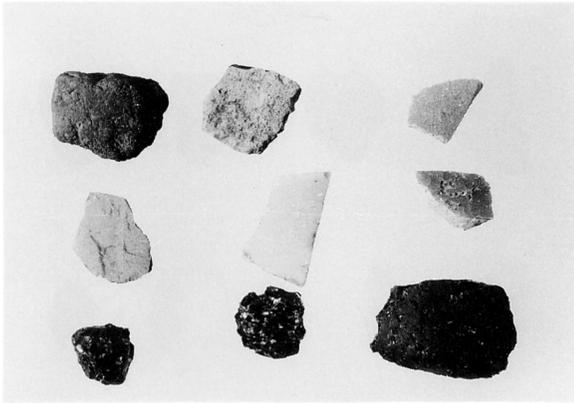
15. スワノ前遺跡



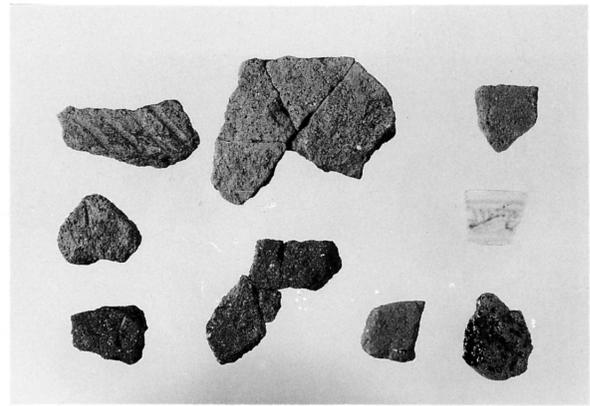
1. 上齊遺跡



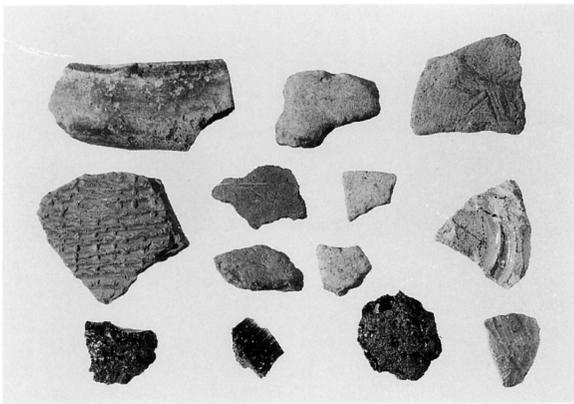
5. 萩谷遺跡



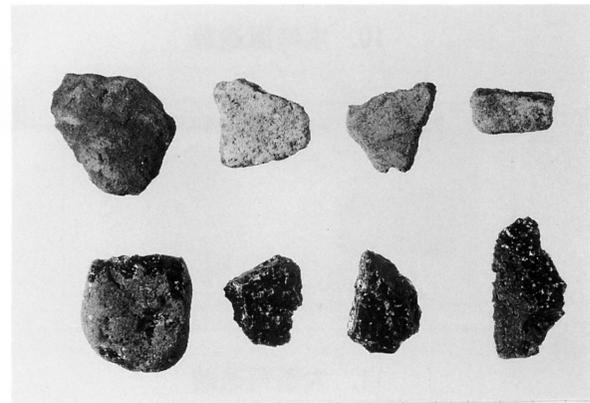
2. 里畑A遺跡



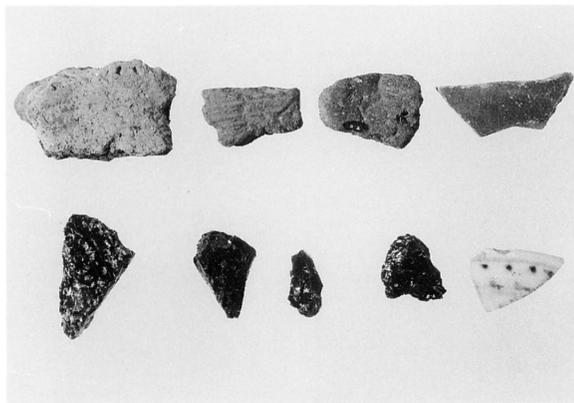
6. 湯ノ谷遺跡



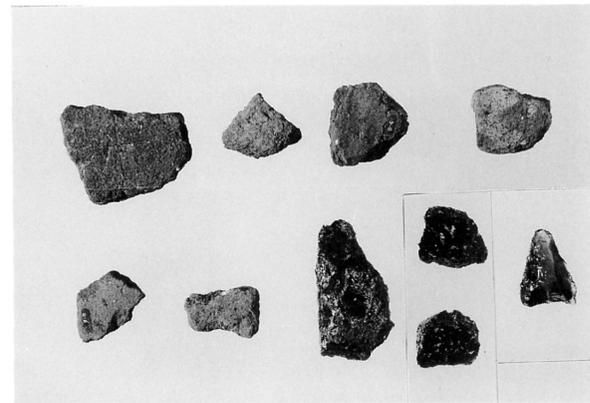
3. 千里原遺跡



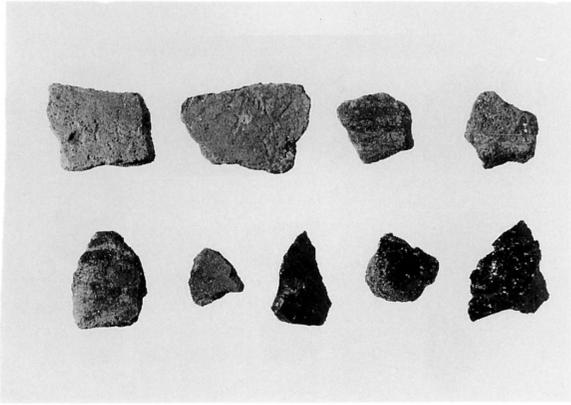
7. 池ノ山遺跡



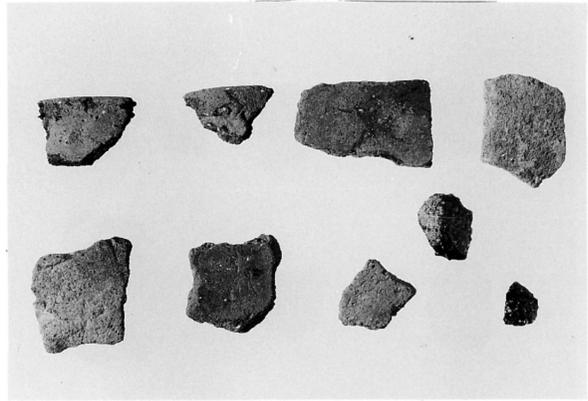
4. 殿後遺跡



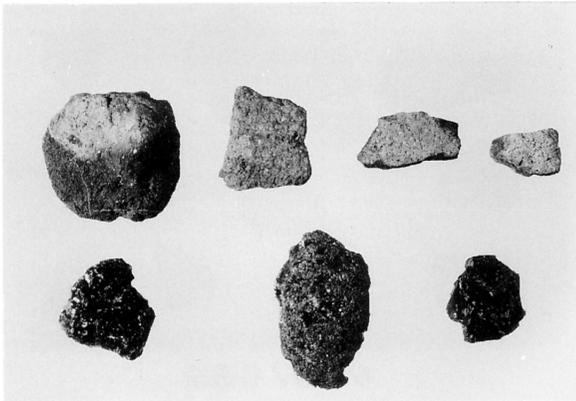
7. 上尾下シ遺跡



9. 下尾下ノ遺跡



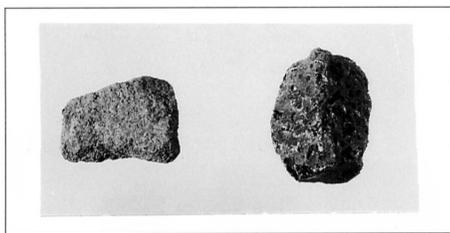
13. 永山遺跡



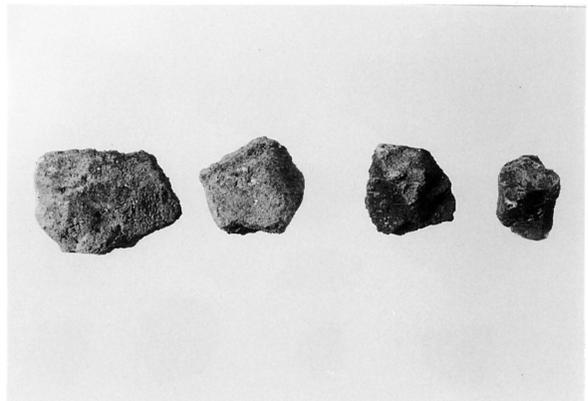
10. 木崎原遺跡



14. 小城遺跡



11. 大儀司遺跡



15. スワノ前遺跡



12. 軍神ノ上遺跡

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（73）

北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（Ⅶ）

発行日 平成10年3月

発行者 鹿児島県教育委員会 ☎890-0064 鹿児島市鴨池新町10-1

印刷所 斯文堂株式会社

住 所 ☎892-0838 鹿児島市新屋敷町14-16